

青森県獣医師会報

No.193

2023

目 次

〔新年のご挨拶〕

公益社団法人 青森県獣医師会	会長	小山田 富弥	1
青森県農林水産部畜産課	課長	村井 孝生	3
青森県健康福祉部保健衛生課	課長	磯嶋 隆	4
青森県動物愛護センター	所長	橋端 宏	5
北里大学獣医学部	学部長	岡野 昇三	6

〔記念式典〕

公益社団法人青森県獣医師会食鳥検査センター 創立20周年記念行事	事務局	7
-------------------------------------	-----	---

〔講座〕

第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会の 参加報告について	事務局	10
福岡県“One Health”国際フォーラム2022+FAVA	事務局	17
アジアワンヘルス福岡宣言2022	事務局	23
令和4年度東北地区獣医師大会概要報告	事務局	24
令和4年度 獣医師大会 「公益社団法人日本獣医師会に対する要望（案）」	26	
令和4年度獣医学術東北地区学会・ 産業動物獣医学会の概要	28	
日本産業動物獣医学会東北地区学会幹事 森山 泰穂（青森支部 青森家畜保健衛生所）	28	
令和4年度獣医学術東北地区学会・ 日本小動物獣医学会に参加して	29	
日本小動物獣医学会東北地区学会幹事 伊藤 直之（三八支部 北里大学）	29	

令和4年度獣医学術東北地区学会・ 日本獣医公衆衛生学会の概要	30
日本公衆衛生獣医学会東北地区学会幹事 吉田 繁成（上十三支部 十和田食肉衛生検査所）	30

〔資料〕

動物愛護フェスティバル2022 「ペットとともに 一歩ずつ 一緒に」	青森県動物愛護センター	31
プロイラーの蜂窩織炎から分離された 大腸菌の特徴と遺伝的背景 （公社）青森県獣医師会食鳥検査センター	中村 成宗 他	35
企画展「アクア学びうむ～豊かな地球を未来に～」	青森県浅虫水族館 久保 真司	40
青森県営浅虫水族館からのお知らせ		43

〔臨床ノート〕

264号 好酸球性角膜炎の猫の1例	44
265号 黒毛和種の唇顎裂の一症例	46

〔会員だより〕

お山歩日記（第10回）	西北支部 角田 裕美	48
-------------	------------	----

〔事務局だより〕

		52
--	--	----

〔編集後記〕

		54
--	--	----



令和5年1月1日

公益社団法人 青森県獣医師会

福岡宣言

人類は、地球上の全ての生命に配慮し、地球環境を健全に維持する責任を担っている。医師と獣医師は、科学的知識を持ち、専門的訓練を受け、法に定められた義務を遂行するとともに、人と動物の健康と環境の維持に係る幅広い活動分野において業務に携わる機会と責任を有している。

2012年10月、世界獣医師会と世界医師会は、“Global Health”の向上のため、また、人と動物の共通感染症への対応、責任ある抗菌剤の使用、教育、臨床及び公衆衛生に係る協力体制を強化するため、両者が連携し、一体となって取り組むことを合意し、覚書を取り交わした。

2013年11月、日本医師会と日本獣医師会は、健康で安全な社会を構築するため、医療及び獣医療の発展に関する学術情報を共有し、連携・共同することを同意し、協定書を取り交わした。更に、日本医師会と日本獣医師会は、2011年3月に発生した東日本大震災における教訓を踏まえ、感染症、自然災害などの危機に対し備えることは勿論、医師と獣医師との連携の強化がいかに大切であるかという点についても意見の一致を見た。この協定書締結は、日本全国の地域医師会と地方獣医師会においても達成された。


2016年11月、世界獣医師会、世界医師会、日本医師会、日本獣医師会の4者は、2015年、スペインのマドリードで開催された第1回“One Health”に関する国際会議に続いて、第2回目の国際会議を日本で開催した。

医師と獣医師は、世界各地からこの福岡の地に集い、人と動物の共通感染症、薬剤耐性対策等を含む“One Health”に関する重要な課題について情報交換と有効な対策の検討を行い、評価すべき成果を取めた。

我々は本会議の成果を踏まえ、“One Health”の概念を検証し、認識する段階から、“One Health”の概念に基づき行動し、実践する段階に進むことを決意し、以下のとおり宣言する。

1. 医師と獣医師は、人と動物の共通感染症予防のための情報交換を促進し、協力関係を強化すると共に、その研究体制の整備に向け、一層の連携・協力を図る。
2. 医師と獣医師は、人と動物の医療において重要な抗菌剤の責任ある使用のため、協力関係を強化する。
3. 医師と獣医師は、“One Health”の概念の理解と実践を含む医学教育および獣医学教育の改善・整備を図る活動を支援する。
4. 医師と獣医師は、健康で安全な社会の構築に係る全ての課題解決のために両者の交流を促進し、協力関係を強化する。


World Veterinary Association
Representative


Johnson Chiang, President-Elect

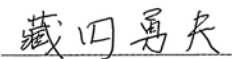
Japan Medical Association
Representative


Yoshitake Yokokura, President

World Medical Association
Representative


Xavier Deau, Immediate Past President

Japan Veterinary Medical Association
Representative


Isao Kurauchi, President



平成28年11月11日福岡県北九州市において調印。
写真左から、藏内勇夫 日本獣医師会会長、ジョンソン・チャン 世界獣医師会次期会長、ザビエル・ドゥー 世界医師会元会長、横倉義武 日本医師会会長。



新年のごあいさつ

公益社団法人 青森県獣医師会

会 長 小山田 富 弥

明けましておめでとうございます。

令和5年の新春を迎え、会員、ご家族の皆様、関係者の皆様におかれましては、ご清栄にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も皆様方がご健勝でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が国内でまん延する中、突然、ロシアによるウクライナ侵攻が開始され、多くの生命と財産が奪われました。また、国際社会の緊張が高まり、特にアジア地域では中国や北朝鮮の動向が注目されました。国内では、ガソリン価格や消費者物価等が高騰するとともに円安が加速し、安倍元首相が銃撃され死亡した事件を契機に様々な政治問題が起こるなど、医療、生活、経済、政治活動の各分野において深刻な影響があった年でした。

一方、全国的に自粛されていた会議等の催し物が感染防止対策を徹底することで行われるようになり、昨年11月、福岡市で第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会が「アジアからのワンヘルスアプローチ」をテーマとして開催されました。また、FAVA大会に先立って公益社団法人日本獣医師会 藏内勇夫 会長がFAVA会長に就任するとともに、福岡県に「FAVAワンヘルス福岡事務所」を開設するなどワンヘルスについて大きな前進がありました。

さて、狂犬病予防注射につきましては、昨年も県動物愛護センターの協力の下で各支部獣医師会と市町村とが連携し狂犬病防疫の啓発に努め、集合注射時期の設定など様々な工夫を重ね接種率向上のため対応して参りました。その結果、接種率は対前年96%の実績となっています。少子高齢化、住宅環境、愛玩動物の飼養形態が犬から猫に移行している中、精一杯の実績と考えています。なお、接種率向上のためには、未登録犬の掘り起こしと登録を徹底することが重要です。昨年6月から動物愛護管理法の改正により販売・譲渡用の犬・猫へのマイクロチップの装着と登録が義務化されています。まだ、運用されたばかりですが、未登録犬の防止や利便性のため、この事業を普及させるとともに犬の登録や鑑札などを簡略化できるワンストップサービスが実現されるよう働きかけて行きたいと考えています。

また、昨年4月に愛玩動物看護師法が施行され、一般財団法人動物看護師統一認定機構が指定試験機関に指定されました。また、これにより本年2月に第1回愛玩動物看護師国家試験が実施されます。愛玩動物看護師は、獣医師の指示による診療補助が可能となり、獣医師との役割分担と連携の下で、より高度なチーム獣医療の提供体制構築が期待されます。

家畜衛生の現状ですが、2018年岐阜県で確認された豚熱は農場でワチクンを接種しているのかかわらず継続

的に発生しており、昨年は、栃木県、茨城県、群馬県などで確認されています。その結果、これまで85事例159農場の豚が処分されています。本県もワクチン使用による防疫に移行しており、本会食鳥検査センター職員も協力しています。幸いにも、これまで県内で捕獲された野生イノシシから野外ウイルスが確認された事例はありません。しかし、アフリカ豚熱の国内侵入も危惧されることから、今後とも気を緩めることなく対応する必要があります。高病原性鳥インフルエンザについては、昨年春の野鳥飛来シーズンに三戸町、横浜町の3農場で発生し、県はその対応に追われました。また、11月には横浜町の1農場で発生し、発生鶏舎や出荷食鳥処理場において疑似患畜の処分が実施されました。そして、12月には三沢市の採卵鶏農場で発生し、137万羽という国内最大規模の防疫措置が進められています。野鳥の体内でウイルスが濃縮されていることも考えられ、今後とも発生する可能性があることから監視体制を強化する必要があります。

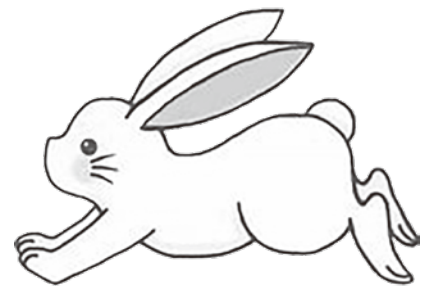
次に食鳥検査事業ですが、早いもので事業開始から20年を経過し、昨年10月に食鳥検査センター創立20周年行事を開催することができました。これも会員、関係者の皆様のご協力とこれまで検査に従事された検査員の方々の賜物と考えております。事業開始当時の食鳥処理数は4,200万羽でしたが、年々増加しており、近年は6,500万羽の処理実績となっています。なお、令和4年度の実績は、11月の高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う食鳥処理場閉鎖の影響だけでも例年より約100万羽減少するものと思います。今後とも、家畜伝染病発生時の対応を強化し、食肉衛生検査所との連携を図りながら検査センターの検査機能の向上と検査技術の高位平準化に努め、安全・安心な食鳥肉を国民の皆様に提供するため努力して参ります。

獣医師は、公衆衛生の向上、安全で安心な畜産物の生産振興と家畜衛生の推進、動物愛護管理と愛護精神の普及啓発、自然環境の保全など多くの社会的責任を担っています。しかしながら、本県では、公衆衛生や家畜衛生業務に従事する獣医師が年々減少し、それぞれの現場で十分な対応が取れず困難となっているのが現状です。そのため、本会としては、引き続き県に対して獣医師の処遇改善と確保、職場環境の整備等を要求することとしています。

近年、全国各地で地震、台風、集中豪雨などの自然災害が多発し、多くの人々や動物が被災しています。動物の福祉に配慮した被災動物救護や獣医療支援チーム（VMAT）などの活動も重要となってきています。また、昨年11月には、動物と人との共生社会づくり、生物多様性や環境の保全などの成果を踏まえ、新たに「アジアワンヘルス福岡宣言2022」が宣言されました。新興・再興感染症を含む人と動物の共通感染症の調査と情報共有、抗菌剤の慎重かつ適正使用と薬剤耐性（AMR）対策、地球的課題として食料・環境問題に対処する上での課題解決に向け、我々が担うべき社会的役割は重みを増すとともに多様化してきています。当会では、これらに対処するためワンヘルスを推進させるとともに、人類がこの地球で暮らし続けるために達成すべきSDGsの活動を積極的に取り入れることとしています。

最後になりますが、卯年は「家内安全」と「飛躍」、「向上」を意味し、新たな事に挑戦するのに最適な年と言われています。今年も新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻による直接、間接的な影響により世界情勢が混乱することが予想されます。しかし、新たな視点で様々な問題や課題を解決し挑戦することで、安定した日常生活に戻れることと信じております。

会員の皆様には、今後とも獣医師会の運営に一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。





新年の御挨拶

青森県農林水産部畜産課

課長 村井孝生

あけましておめでとうございます。

小山田会長をはじめ会員の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。公益社団法人青森県獣医師会におかれましては、日頃から家畜衛生業務の推進を通じて本県の畜産振興に格段の御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、昨年の社会情勢は、ワクチン接種等による新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により、少しずつ社会活動や消費動向が元に戻りつつある中で、不安定な国際情勢や円安に伴い、配合飼料価格が歴史的な高値となるなど、畜産経営にとっては、非常に厳しい一年となりました。

一方、家畜衛生の分野に目を向けますと、高病原性鳥インフルエンザが、近年、世界的に感染拡大が深刻化しており、全国各地の野鳥等からのウイルス検出に加え、国内の家きん農場でも毎年のように発生が確認されています。本県においても、令和3年度から令和4年度にかけての昨シーズンは3例発生し、昨年4月には、年度始めに大規模養鶏場での続発となり、県を挙げての防疫対応に加え、農村整備建設協会、関係市町村、陸上自衛隊などの多大なる御協力により、他の地域にまん延することなく、終息させることができました。

また、昨年11月の発生では、発生農場と食鳥処理場での防疫措置を実施したところであり、貴会の皆様におかれましても、多方面にわたり御尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

県としては、これまでの防疫対応を踏まえ、デジタル機器を活用した飼養衛生管理指導の効率化に加え、庁内外の組織体制の強化や備蓄資材の適正化など、発生予防やまん延防止の対策に取り組んでいるところです。

また、養豚においては、豚熱ワクチンの継続接種を行う非常勤家畜防疫員の任命等に当たり、貴会に多大なる御協力を賜り、心からお礼申し上げます。一方、野生イノシシでの感染拡大は深刻であり、昨年4月には岩手県、8月には秋田県の両隣県でウイルスが確認されており、本県への侵入リスクが非常に高まっています。

県としては、まずは養豚場で発生させないことを第一に、関係団体と連携し、捕獲された野生イノシシの感染状況を速やかに把握し、周知するほか、非常勤家畜防疫員や知事認定獣医師等による接種体制を進め、適時・適切にワクチン接種を実施するとともに、養豚場への注意喚起と飼養衛生管理基準の遵守徹底を改めて指導しているところです。

畜産業は、本県農業の基幹部門であり、食品加工や物流とも密接に関連した裾野の広い成長分野であることから、更なる発展を図るため、貴会会員の皆様の豊富な経験や知識、そして、高度な技術の果たす役割が一層大きくなっていますので、引き続き、本県の家畜衛生の推進と畜産業の発展に御尽力いただきますようお願い申し上げます。

結びに、貴会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍を心からお祈り申し上げ、新年の御挨拶いたします。

※新年挨拶の原稿は、昨年12月上旬に提出していただいたものです。



新年のご挨拶

青森県健康福祉部保健衛生課

課長 磯 嶋 隆

新年あけましておめでとうございます。公益社団法人青森県獣医師会の会員の皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃から本県の感染症対策行政、食肉衛生行政、食品衛生行政及び動物愛護管理行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症については、依然として収束の見通しが立たない状況にあり、保健所等の業務がひっ迫する中であって、貴会におかれましては、感染拡大への対応のため、貴重な人材を派遣いただき感謝申し上げます。県では、引き続き、感染拡大防止に向け、職員が一丸となって取り組んでいく所存ですので、御理解、御協力をお願いします。

食鳥検査については、貴会が食鳥検査事業を開始した当初の検査羽数が、この20年間で50%以上増加しており、検査に対応する人材確保をはじめとするセンター機能の維持・強化に努められていることは、不断の努力の賜物と敬意を表します。食鳥肉に関しては、健康志向の高まり、根強い国産志向を背景として消費量が増加しており、それに伴い、より一層の安全性が求められているところです。そうした中、令和3年6月、食品衛生法の一部改正により、食鳥処理場においてもHACCPに沿った衛生管理が義務化されたところです。

HACCPに沿った衛生管理と食鳥検査は、食鳥肉の安全性を確保するためのいわば車の両輪のようなものです。

飼料価格や燃料費の高騰、高病原性鳥インフルエンザの発生が各地で確認される等、養鶏業を取り巻く環境は厳しいものとなっていますが、安全な本県産食鳥肉の生産を確保することで、消費者の信頼に応えることは、私たちの使命であると考えております。

県としては、処理場の監視指導等を通じて、適正なHACCPに沿った衛生管理が行われるよう引き続き支援していくこととしています。

貴会におかれましては、本県の食鳥検査の拠点として、常に最新の知見等を基に厳正な食鳥検査について御尽力賜りますようお願い申し上げます。

動物愛護管理行政につきましては、平成18年に開設した青森県動物愛護センターを拠点に貴会と連携し、広く県民に動物愛護の思想と適正飼養が普及するよう、動物ふれあい活動等に取り組んできました。その結果、動物愛護センター開設当初に比べて放浪犬の捕獲頭数や飼い犬・飼い猫の引取頭数については大きく減少する等成果が上がっている一方で、致死処分される動物の過半数を占め、処分頭数の減少が頭打ちとなっている猫対策や災害発生時のペットの同行避難体制の充実と県民への周知等の課題もあり、県としては、貴会や動物愛護団体等との連携を図りながら、地域猫活動の普及等飼い主のいない猫を増やさないための取組や市町村に対するペットの同行避難体制の構築の働きかけを推進していくこととしていますので、引き続きの御理解と御協力をお願いします。

結びに、本年が会員の皆様にとって、幸多き年になりますよう、ますますの御発展を御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新年のごあいさつ

青森県動物愛護センター

所 長 橋 端 宏

公益社団法人青森県獣医師会会員の皆さま、あけましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしいお年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日ごろから当センターにおける動物愛護管理行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、狂犬病予防対策につきましては、集合注射会場への獣医師派遣及び動物病院における個別接種等につきまして御尽力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。お陰様で本県の狂犬病予防注射接種率は令和3年度で88%と高い接種率を記録することができました。今後も会員の皆さまの御協力をお願いいたします。

ペットショップ等で販売される犬猫へのマイクロチップ装着義務化につきましては、動物の愛護及び管理に関する法律が令和4年6月1日から改正施行されたことに伴い、営業者及び犬猫飼養者に対する指導、啓発を行っているところです。

また、県では飼い主のいない猫の適正管理と県民の生活環境の保持を目的とした地域猫活動支援要領を令和4年度から運用しており、自治体や町内会に対して説明会を開催したところ、これまで県下5地域から相談が寄せられ、このうち2地域の計4頭に対して不妊手術を実施いたしました。本事業については、運用開始から半年余りが経過しましたがTNR事業と誤解する県民もあることから、より丁寧な周知と説明を心がけ推進して参りたいと思っております。

コロナ禍で開催を見送っておりました動物愛護フェスティバルにつきましては、感染症対策に万全を期し、3年ぶりに令和4年9月24・25日に開催し、2千人以上のお客様においでいただきました。これまで人気でした「犬猫のふれあい」は来場者の密を避けるためと動物のストレス軽減のため行わず、そのかわり「観て遊ぶ展示」として、ねこギャラリーでの猫展示、犬の世界体験コーナー（犬の視覚・嗅覚体験）等を新たに設けましたが、お客様には概ね好評でした。これもひとえに当センターを御支援くださる貴会をはじめとした各団体やボランティアの皆様のおかげと感謝しております。また、期間中にセンター開設当初からの来館者総数が41万人を突破するという嬉しいことも重なりました。

動物愛護管理行政を取り巻く現状は、多頭飼育崩壊や動物虐待等まだまだ気を抜けない事案も多いのですが、会員の皆さまのお力添えを頂き、Instagram、You Tube等を活用した情報発信も行って動物愛護思想の普及推進に努めて参る所存ですので、変わらぬ御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに本年が会員の皆さまにとりまして、幸多く笑顔の年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。



新年のご挨拶

北里大学獣医学部

獣医学部長 岡野 昇 三

青森県獣医師会会員の皆様、あけましておめでとうございます。皆様がお健やかに新しい年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

2019年末に始まった新型コロナウイルス感染症は、多くの人々がワクチン接種を複数回行ったことにより昨年度前半は新規感染者数が減少傾向を示しておりました。しかし、行動制限の緩和や全国旅行支援の再開、自粛疲れなど我々の行動が徐々に広がるにつれて再び新規感染者数が増加傾向へと転換し、第8波の到来となってしまいました。これまで、北里大学では万全の対策を講じてきましたが、残念ながら学部内でも散発的な発生を認めております。青森県の多くの皆様と協力し、感染を広げないウィズコロナの時代をうまく過ごしていければと切に願うものであります。

このような状況の中、関係者のご努力により徹底した感染対策のもとに令和4年度獣医学術東北地区学会が盛岡市で3年ぶりに対面式で開催され、青森県獣医師会会員の皆さまにご参加頂きました。小動物部門の会長を仰せつかっておりますので、この場をお借りしてお礼申し上げます。さらに、第21回アジア獣医師連合（FAVA）大会ならびに第40回日本獣医師会獣医学術年次大会が福岡市で開催され、これまで以上にワンヘルスの重要性が謳われました。

青森県内において高病原性鳥インフルエンザ発生時には多くの獣医師が対応に尽力され、公衆衛生上の問題な白魚の生食による顎口虫症の集団発生など獣医師と関わりの深い出来事が散見されました。また、昨年5月に愛玩動物看護師法が施行され、6月から販売用の犬・猫へのマイクロチップの装着・登録が義務化され、獣医師に関連する法律が施行された年でもありました。今年2月には第1回愛玩動物看護師国家試験が実施され、チーム獣医療の新たなスタートを迎えることとなります。

北里大学獣医学部は、これからも青森県獣医師会会員の皆様とともに獣医師の幅広い活動に連携・協力しながら頑張っている所存です。2023年が青森県獣医師会会員の皆様にとって、素晴らしい年となりますことを心から御祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

公益社団法人青森県獣医師会 食鳥検査センター創立20周年記念行事

事務局

令和4年10月9日（日）午後2時から「アップルパレス青森」において、公益社団法人青森県獣医師会食鳥検査センター創立20周年記念行事が開催されました。

御来賓として、青森県健康福祉部保健衛生課長、農林水産部畜産課長、一般社団法人岩手県獣医師会会長、公益社団法人宮城県獣医師会会長、辻・本郷税理士法人青森事務所長の皆様をお招きし、表彰される功労者の方々、食鳥検査センターの職員、県獣医師会役員、関係者等65名が参加しました。

記念式典は、

- 1 開会の辞
- 2 物故者に対する黙祷
- 3 （公社）青森県獣医師会会長式辞
- 4 食鳥検査センター 20年のあゆみ
- 5 功労者表彰
- 6 来賓御祝辞
- 7 受賞者代表謝辞
- 8 閉会の辞

の順で肅々と執り行われました。

なお、司会は食鳥検査センターの原田邦弘次長が務めました。



【小山田会長式辞】

青森県の養鶏産業は、昭和57年10月、八戸市に飼料穀物コンビナートが操業を開始し安価な飼料と養鶏に適している冷涼な気候や十分な労働力などにより順調に伸びてきています。



令和2年の農業産出額3,262億円ですが、現在、りんご、米、豚に次いで第4位がブロイラーで農業産出額も217億円となっています。

事業開始当初は、食鳥検査羽数も年間4,200万羽であったものが、現在では約1.5倍の6,500万羽と増羽され順調に推移しているところです。

しかし、残念なことに昨年12月に高病原性鳥インフルエンザが三戸町で、本年4月には横浜町の2農場で発生しました。食鳥検査センターでは、本病の発生に対応するため食鳥処理場に搬入された鶏の生体検査を強化し監視体制を徹底するなどの対応を行いました。幸いにして、県をはじめ関係者各位の迅速な対応と御努力により無事に防疫作業が終了し、その被害と影響を最小限に留めることができました。

現在、新型コロナウイルス感染症については、数回にわたるワクチン接種が実施され、感染者数もあ



る程度落ち着いています。この状況を鑑みて、食鳥検査センター 20周年記念行事を開催しました。

また、本日は、以前から企画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実現できなかった濱岡先生からの御講演を頂くことになっています。

今後とも食鳥検査事業については、安全で安心できる食鳥を提供するため、一層、努力して参りますので、皆様の御支援と御協力をお願いします。

【食鳥検査センター 20年のあゆみ】

食鳥検査センターの佐々木亨所長から次のとおりセンター設立から今日に至る経緯について説明がありました。

青森県獣医師会は、食鳥検査事業について平成9年に事業に取り組む方針を決定し、平成15年から事業を開始しました。

平成20年には、検査員の技術のレベルアップを図

るため「食鳥検査カラーアトラス」を作成し配布、平成24年にはセンター創立10周年記念を開催しました。

さらに、平成27年に十和田市へ食鳥検査センターを新築移転し現在に至っています。

現在は、県獣医師会の公2事業として主幹をなしており公益事業として受益者の信頼に応えるよう努力しています。

【功労者表彰と祝辞】

これまで食鳥検査センターの設立・運営等にご尽力された16名の方々の表彰が行なわれました。

次に、ご来賓の皆様を代表して青森県健康福祉部保健衛生課長（食品衛生グループ定 孝総括主幹（GM）代読）、一般社団法人岩手県獣医師会 佐々木一弥 会長から祝辞を戴きました。

その後、功労者表彰代表として鳥谷部 勲 先生から謝辞があり、記念行事は閉会されました。



○食鳥検査センター設立・運営に係る功労者（4名）

山内 正孝、山口 眞譽、成田 浩志、附田 彰二（敬称略）

○食鳥検査及び食鳥検査事業に係る功労者（12名）

小笠原 明、鳥谷部 勲、平野 直、荻ノ沢 俊明、苫米地 隆、中村 徹、鈴木 顯義、漆畑 幸男

小向 鉄廣、佐々木 重喜、内田 正博、武邊 千秋（敬称略）

【20周年記念講演】

記念講演は、本会の会員でもある一般財団法人生物科学安全研究所理事長の濱岡隆文先生をお招きして「畜産物の安全性の確保 - Farm to Table 家畜衛生と公衆衛生の中継点.」と題して開催されました。

リンデルペストの発生とその防疫、家畜伝染病と医師や獣医師の係わり、家畜衛生の基本と発展、家畜伝染病予防に係る法整備などについて基本的なお話がありました。

また、自らが携わった家畜衛生ガイドライン作成の経緯と飼養衛生管理基準と農場HACCPの普及、農場バイオセキュリティの概念と基本について説明があり、最後に、「生産・加工・流通・消費を通じて食鳥処理場は家畜衛生と公衆衛生の中継点であり、ワンヘルスが標榜される現在では、家畜衛生と公衆衛生といった行政区分は獣医領域で意味を失いつつある」との内容で講演が終了しました。



まさに、食鳥検査に携わる職員は家畜衛生と公衆衛生の中継者であり食品の安全と安心を確保するため、より一層努力する必要があると実感しました。

続いて、中島 聡 先生、小笠原 明 先生から講演に対する質問があり盛況のうちに終了しました。

【祝賀会】

講演終了後には盛大に祝賀会が開催され、会長の挨拶の後、本年度から食鳥検査機関の指定を受け検査を実施している公益社団法人宮城県獣医師会 渡邊 清博 会長から御祝辞をいただき出席者一同が楽しい時間を過ごしました。

最後に、小笠原 良孝 非常勤検査員が御来賓の皆様と記念講演をして頂いた濱岡先生に対し心のもったお礼の挨拶を行い、食鳥検査事業の発展を祈念して参加者一同の音頭をとり、祝賀会は滞りなく閉会しました。



第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会の参加報告について

（連携開催：第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会）

事務局

平成4年11月11日、新型コロナウイルス感染症など、人と動物に共通する感染症が世界的な課題となる中、学術分野での交流を目的とする「第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会」が福岡市で開催されました。日本での開催は27年ぶりとなりますが、今回の大会は、アジアやオセアニアなど世界各国から約2,000人が参加し、「アジアからのワンヘルスアプローチ：人と動物の健康は一つ、それは地球の願い」をテーマに、ワンヘルスの推進、新型コロナウイルス感染症をはじめとする人獣共通感染症、薬剤耐性（AMR）への対策や取り組みなど、活発な情報交換が行われました。

また、大会期間中、ワンヘルスの取り組みについての研究成果を発表する国際フォーラム「福岡県“One Health”国際フォーラム2022」がFAVA大会と同時開催され、ワンヘルスアプローチの研究成果を世界に向けて発信しました。



ヒルトン福岡シーホーク

1 開催日等

- (1) 会 期：令和4年11月11日（金）～13日（日）
- (2) 会 場：ヒルトン福岡シーホーク
- (3) 大会長：公益社団法人日本獣医師会
会長 藏内 勇夫
- (4) 参加者：13か国 約2,000名
- (5) 主催者：公益社団法人日本獣医師会、アジア
獣医師会連合（FAVA）

2 主催者挨拶

アジア獣医師会連合（FAVA） 会長

公益社団法人日本獣医師会 会長 藏内 勇夫

本日は、日本で第21回アジア獣医師会連合大会が開催され、本会議に皆様を歓迎できたことは、大変な喜びであります。この後、岸田文雄内閣総理大臣、



林芳正外務大臣からビデオメッセージをいただくことになっていますが、ラファエル・ラガンズWVA会長はじめ多くの御来賓の方に参列していただき、コロナパンデミックを乗り越えてFAVA大会が開催されたことに心から感謝申し上げます。

1995年、第9回アジア獣医師会連合大会と第25回世界獣医師会大会が横浜で共同開催されましたが、その年は、阪神淡路大震災が起こった年でした。発災後、大会は開催されるのか、日本経済は大丈夫なのかなど、世界各国から心配の声が上がりましたが、日本の獣医師が力を合わせ、これまでにない参加者

を得て、大会を成功裏に終わらせることができました。今回もコロナ禍の中、2,000名の参加者を集めた国際大会を成功させ、アジアをはじめ世界に力を見せることが出来ました。

本大会のテーマは、「アジアからのワンヘルスアプローチ：人と動物の健康は一つ、それは地球の願い」です。人獣共通感染症、AMR、人と動物の健康など、今後、各分野が一体となったワンヘルス概念が一層必要となっています。平成28年11月に北九州市で開催された「第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議」において、ワンヘルスの理念を実践する上で基盤となる「福岡宣言」を発信しています。また、福岡県では、全国初となるワンヘルスに関する条例、「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定し、さらに、今大会の開催前にワンヘルスに特化した「FAVAワンヘルス福岡オフィス」が、ここ福岡市に設置されました。今後、WHOと連携しながらワンヘルスを推進していくこととしており、福岡からワンヘルスの重要性をアジアに、そして世界に再び発信して参ります。

3 来賓祝辞

(1) 岸田文雄内閣総理大臣（ビデオメッセージ）

本日、第21回アジア獣医師会連合大会が開催され、アジア・オセアニアをはじめ世界各国の皆様が参加し、医師や獣医師の皆様、誠におめでとうございます。



テーマは、「アジアからのワンヘルスアプローチ」と聞いていますが、福岡県は、初めてワンヘルスに関する条例を制定し、県民が一体となって取り組んでいる先進県であります。新型コロナウイルス感染症をはじめ、人獣共通感染症など、その予防対策として、ワンヘルスの実

践に基づく感染対策が必要とされており、政府としても次の感染症の危機に備え、福岡県の取り組みを参考に感染症対策の強化に取り組んで行きたいと考えています。

藏内会長がアジア獣医師連合会の会長に就任されたことは喜ばしいことであり、これからリーダーシップを発揮していただき、日本からアジアそして世界へワンヘルスを発信し、ポスト・コロナを見据えた取り組みに期待しています。

(2) ラファエル・ラガンズWVA会長

福岡県知事、福岡市長がワンヘルスの重要性について理解していただき、誠にありがとうございます。また、藏内会長をは



じめ御来賓の皆様には、第21回アジア獣医師会連合大会において、この様な挨拶する機会をいただき大変光栄に思っています。今回のテーマは、「アジアからのワンヘルスアプローチ」ですが、福岡県は、ワンヘルスを推進するには、理想的な会場です。「第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議」が北九州会場で2016年に開催され、その後、福岡宣言、ワンヘルスの条例制定、国際フォーラムの開催、そしてFAVAワンヘルス福岡オフィスが福岡市に開設されました。WVAとしては、各委員会、作業部会等を通して様々な活動に取り組んでおり、これまで人獣、食品、環境が引き起こす課題をコラボレーションしながら解決しています。本日は、誠におめでとうございます。

(3) **クアザ・ニザムディン・ビン・ハッサン・ニザムアジアFAVA前会長**

アジア獣医師会連合は、1978年、マニラ市で第1回大会が開催され、フィリピン、日本、マレーシア、インドネシア、韓国の5か国で発足されました。現在は、アジア・オセアニア地域23か国の獣医師会の連合組織へと成長しました。また、FAVA大会は、コロナの感染拡大で開催できない年もありましたが、知識や技術を高めるため、2年に1回開催しています。

FAVAは、非政府組織として、国境を超える感染症、AMR、動物福祉、家畜生産、食品衛生等に取り組んでおり、ワンヘルスを通して枠組み、実行、計画等を審議しています。FAVAワンヘルス福岡オフィスの開設はタイムリーであり、福岡で第21回アジア獣医師会連合大会が開催されたことにお祝い申し上げますとともに、今大会の成功を祈念します。

(4) **林芳正外務大臣（ビデオメッセージ）**

この度、第21回アジア獣医師会連合大会が藏内会長のもと、盛大に開催されたことを心よりお喜び申し上げます。

近年、人や物の移動はグローバルとなり、BSE、鳥インフルエンザ、コロナウイルス感染症等、人と動物の感染症は、経済に大きな影響を及ぼします。人と動物とを分けず、人・動物は一つであると考えることが重要です。今回のテーマ「アジアからのワンヘルスアプローチ」は、アジアの架け橋である福岡で開催され、非常にタイムリーなものです。外務大臣としては、世界規模の取り組みを日本から世界に発信し、日本が世界をリードしていくことを期待しています。

(5) **服部誠太郎福岡県知事**

第21回アジア獣医師会連合大会がここ福岡で盛大に開催され、福岡市長とともに嬉しく思っ

ています。県民を代表して歓迎申し上げます。

福岡県では、県政のチャレンジの1つとして、ワンヘルスの推進を掲げています。今回、このように各分野の方が一堂に会し、開催されたことは、大変意義深いものであり、FAVAの藏内会長をはじめ、開催に御尽力された関係者の皆様にお礼申し上げます。

福岡県は、日本で唯一、ワンヘルスの推進に関する条例を制定しています。この条例に基づき、人の健康と動物の保健衛生、環境の保全を担うワンヘルスセンターの整備に取り組むとともに、国立感染症研究所のサテライトとして「アジア新興・人獣共通感染症センター」の九州、福岡への開設を国に働きかけているところです。加えて、11月9日、アクロス福岡に開設することが決定した『FAVAワンヘルス福岡オフィス』と連携し、さらにワンヘルスの取り組みを進めていくこととしています。

(6) **高島宗一郎福岡市長**

第21回アジア獣医師会の開催、誠にありがとうございます。藏内会長をはじめ、御参加の獣医師の皆様には、日頃から動物



の健康や人の健康を守る公衆衛生の分野におきましても、多大な貢献を賜っていることに感謝申し上げます。

福岡市は、その地理的な特性からアジアの玄関口として、2,000年以上前からアジア、世界の交流で栄えた都市です。それ故、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症、人獣共通感染症対策が課題となりますが、課題をチャンスとして捉え、都市の新たな強みとして、世界に先駆けた感染症対応シティーという



藏内会長（右から6人目）とFAVA役員

ことで、with コロナに対応したビル、ホテルの新たな建設、建て替えを進めています。ワンヘルスの理念は、アジアのリーダーシティを目指す福岡市でも重要と捉え、FAVAのワンヘルス福岡オフィスが福岡市に開設することが決まり、今後とも、藏内会長、服部県知事と連携しながら推進していきたいと思えます。

福岡市では、迷子の犬の解決のためにマイクロチップの装着を進めていますが、さらに犬の鼻紋認証アプリを使う実証実験にも取り組んでいます。

この大会を通して各国の連携が取れ、ワンヘルスの実践がさらに進められるよう期待します。

3 記念講演

「新興感染症の征圧を目指して」

河岡 義裕（国立国際医療研究センター国際ウイルス感染症センター／東京大学医学研究所特任教授／ウイスコンシン大学教授）

本日は、インフルエンザ、エボラ、コロナの3つのテーマについて、お話したいと思います。

スペイン風邪は、1918年から翌年にかけて世界的に流行したH1N1型のA型インフルエンザウイルス感染症です。20世紀に人類が経験した新型インフルエンザウイルスのうち、スペイン風邪では、最大の被害者数、つまり全世界で2,000万～4,000万人の

死者が出たといわれています。ところが、当時、インフルエンザウイルスを分離する技術は確立しておらず、流行当時のウイルスは現存していません。そのため、なぜその様な強い病原性があったのかは全く不明なままでした。

私たちは、1918年のスペイン風邪ウイルスの遺伝子を、公表された遺伝子配列から再構築し、リバースジェネティクス法により1918年のウイルスを人工合成しました。このスペイン風邪ウイルスはマカカ属のサルに強い致死性の肺炎を引き起こさせました。また、感染したサルは、ウイルスに対する自然免疫反応の調節に異常を起こしていることがわかりました。

インフルエンザウイルスが、感染した人や動物の免疫反応の調節に異常を起こす現象は、H5N1鳥インフルエンザウイルスの感染でも確認されています。シアル酸は、動物の細胞表面にある糖タンパク質や糖脂質の末端にある糖の1つです。鳥の体には、シアル酸が肺の細胞にある α 2,3結合するものが多く存在し、ヒトでは、上気道と肺の細胞にある α 2,6結合しているものが多く存在します。H5N1ウイルスがヒトからヒトへ効率よく伝播するためには、ウイルスのHAがヒトの上部気道に多く存在するヒト型レセプター α 2,6を認識できるように変異する必要があります。H7N9は、フェレットでは変異なしで感染します。季節性インフルエンザは肺で増殖しませんが、H1N1では増殖します。ただし、抗インフルエンザ薬により、H1N1のウイ

ルス増殖は抑制されます。

エボラ出血熱は、エボラウイルス感染によって起こる全身感染症です。致死率が非常に高く、効果的な治療薬やワクチンがないため、公衆衛生上非常に深刻な問題となっています。2013年に西アフリカ諸国で発生したエボラ出血熱は、過去最大の流行を引き起こしました。欧米諸国でも、流行地から帰国した医療関係者を中心に、十数名の感染者が出ました。

したがって、今後のエボラ出血熱の流行に備え、本感染症の病原性発現機構を詳細に解析し治療・予防法を確立することは、喫緊の課題です。エボラウイルス感染後に、死亡した患者と回復した患者における宿主応答を比較解析したところ、エボラ重症患者の体内で起こる組織障害には、腓酵素や、好中球によって誘起された免疫系の異常反応が関与することが示され、エボラ出血熱の重症化メカニズムの一端が明らかとなりました。さらに重症患者において特異的な発現パターンを示す宿主因子が同定され、これらの因子は病気の帰結を評価しうるバイオマーカーとして有望であることが分かりました。

私たちは、ウイルス遺伝子の一部を欠損変異させたエボラウイルスを薬剤で不活化し、その不活化変異ウイルスをワクチンとして接種したサルが、野生型のエボラウイルスの感染を防御することを明らかにしました。現在、人への臨床試験を進めており、エボラワクチンの開発を目指しています。

新型コロナウイルスの変異株による流行が現在も世界規模で続き、我々は大変な体験をしています。オミクロン株は、BA.2系統から派生したBA.2.75系統に属する株の感染例が急速に増えています。従来株のオミクロン株とデルタ株で病原性を比較すると、従来株<2.75<デルタ株の強さとなっています。

モノクローナル抗体は変異株によって異なり、オミクロン株は弱毒ですが、モノクローナル抗体にはあまり効果はありません。3種類の抗ウイルス薬、レムデシビル、モルヌピラビル、ニルマトレルビルの阻害薬の効果を解析したところ、いずれも

BA.2.75系統の増殖を効果的に抑制することが分かりました。

4 特別シンポジウム

(1) 鳥インフルエンザの現状と課題

迫田 義博：北海道大学

2021～2022年シーズンの冬の鳥インフルエンザ季節のウイルスは、極東だけでなく鳥の渡りによりヨーロッパ、アフリカ、北米にも広がり家畜に深刻な被害をもたらしました。近年流行しているHPAIVウイルスはカモやハクチョウなど野生の水鳥には病原性は低く、日本でウイルスに感染した野鳥は主に雑食性のカラスや猛禽類です。また、そういったHPAIVに感染した野鳥を捕食したと考えられるキツネやその他の哺乳類の感染例も報告されています。

冬の間シベリアの営巣地の湖等の湿地で凍結保存された氷が溶けウイルスが、シベリアに戻ってきた野生の水鳥に感染し、その水鳥が感染源になっていることは否定出来ません。

このように、自然界におけるウイルスが世界中に持ち込まれることは避けられないことから関係各所の更なる情報共有と対策強化が求められています。

(2) 獣医療分野における薬剤耐性菌対策の国際的な取り組み状況

ジェフリー スコット ウィーズ：ゲルフ大学

「動物の幸福」の目的のためには、真に必要な時には抗菌剤の使用は是であるが、その事を理由にした正当性の主張は否であります。世界的に抗菌剤の使用量は他の分野で使用する量に比べ動物が多く、選択の設定が重要であります。

ただし、単に使用量の減を主張する風潮は、ある程度理解できるが、何よりも正しい使い方が重要です。例えば、「50%減らす」は、表面的には聞こえが良いが数字にとられると後に

耐性菌の出現の面で影響がでます。

結論として、抗生剤の使用の目的は、動物の幸福と健康の維持であります。手段として事前の環境の洗浄と消毒により使用量はかなり減らせます。

(3) 人—動物関連で作られるパンデミックとサイレントパンデミック

舘田 一博：東邦大学

二十世紀の抗菌療法の歴史は、1900年代初頭のサルファ剤とペニシリンの発見に始まり、その後は優れた合成抗菌剤の利点を享受しており、現在では、その数150種類以上が開発され広い分野で不可欠となっています。しかし、その使用方法と使用量の増加により薬剤耐性菌の出現によって危機に直面しています。耐性菌の問題は、地球規模で考える必要があります。

「One Health」の概念は、国境を越えた耐性菌の拡散に対処するため、国境のない時代におけるグローバルな協力との重要性を強調しています。

耐性菌の問題そのものが世界的な問題として静かなパンデミックとして対処されています。

一方、新しいコロナウイルスが出現し、2020年の感染症（COVID-19）は、パンデミック感染症として世界中で6億人以上が感染して人類に大きな脅威をもたらしています。COVID-19は血管内皮細胞に侵入し血栓を形成し重症化により死亡します。m-RNAワクチンは効果期間が3ヶ月と短く、日本はm-RNAワクチンの開発に出遅れた中で、次の手として欠点を生かした新ワクチンの開発が必要です。

今後、重要な感染症は「サル痘」である。天然痘はヒトのみの感染で1980年に地球上から根絶しました。本病は、同性愛者間で拡大している。性感染症であり、このことはデリケートでもあり重大な問題点です。サイレントパンデ

ミックとして、AMRが挙げられます。何も手を打たないと2050年には世界中の死者が1,000万人になるとWHOも提唱しています。もっと短期間でパンデミック化すると考えていい。待ったなしであることを申し添えたいと思います。

(4) 日本の獣医学教育におけるワンヘルスの取組みと期待

丸山 総一：日本大学

今日の会場には、国内外からの獣医師や関係者に加え、一般の方々、高校生等も来られていることから、獣医系大学の現状から紹介します。北は北海道から南は九州まで全国に国立、私立合わせて17大学があります。国立11大学の学生規模は世界と比べ小さいなかで国際化、高度化、多様性に対応するため大学同士が連携し、個々の強みを生かした教育が取り入れられています。実際に、北大と帯広畜産大は共同獣医学課程を、岩手と東京農工大は共同獣医学科を、岐阜大と鳥取大も共同獣医学科、山口大と鹿児島大は共同獣医学部を設置して教育を進めています。教養課程はそれぞれが行い専門課程と実習は小動物と産業動物の強みを活かし互いに現地に出向き受講しています。北大と帯畜大、山口大と鹿児島大の両連合大は2019年にアジア獣医学教育機関協会の認証を取得しています。また、全17大学は獣医学モデル・コア・カリキュラムを取り入れた授業を実施しています。これまで大学カリキュラムは大学独自に教員にまかされてきました。しかし、食の安全、人獣共通感染症対策、小動物獣医療サービスの高度化から質の向上が求められていたことから、2012年からコア・カリキュラムがスタートしたものです。今では、6年間のカリキュラムの3分の2は共通で、3分の1が独自性のある項目で構成され共通の到達目標が示されています。

我が国の獣医学教育の目指すところは、質の向上と社会の求める人材の育成が最大の目標で、具体的な社会の求めるものは、

- ① 食の安全確保・食肉の安全性
- ② 人獣共通感染症対策（狂犬病、新型コロナウイルス感染症）
- ③ 家畜感染症対策（鳥インフルエンザ、口蹄疫、豚熱）
- ④ 高度化する小動物獣医療対策（診断技術、診療の高度化）
- ⑤ 産業動物獣医師の育成
- ⑥ WHO・FDA・OIEといった国際機関で活躍できる人材育成

といった大学教育におけるワンヘルスへの対応は、「ヒトの健康」「動物の健康」「環境の健康」で獣医学の中で考える必要がある時期に来ている中で、ワン・ヘルスに関係する教育科目は公衆衛生学、人獣共通感染症学、環境衛生学、食品衛生学、毒性学、野生動物学、疫学に実習があります。獣医学はヒトの健康に大きく関与していて特に人獣共通感染症です。日本獣医師会では、ヒトと動物の共通感染症と言うが自然の状態ではヒトと脊椎動物の間で相互に移行する感染症であります。世界中の1,415の病原体のうち61%はヒトと動物に共通し、新興感染症75%はヒトと動物に共通であると言われております。「新興感染症」という言葉が世に出てきたのは1970年です。それ以降に発見された感染症は全て新興感染症と言います。新型コロナウイルス感染症、SFTS、エボラ出血熱、MARS、ニパウイルス感染症等です。これらが世に出てきた背景にはそれぞれ理由があり、例えば、SFTSはこれまで里山には野生獣の住むエリアとヒトの住むエリアには干渉地帯が自然に存在していました。それが里山の高齢化により管理できず荒廃し野生獣のエリアには森林開発等により餌が不足し、ヒトと野生獣の距離がなくな

り結果的にダニのヒトへの寄生が成立する等々です。日本の獣医学に求められるものは、これまでの各分野の垣根を取り払い医学薬学、農学、生態学、行政が協力しあわなければ解決できません。

また、獣医学ではこれまで以上のカリキュラムが必要となり、そのための人材育成も必要であります。昨日の特別招待講演2においてアメリカのデボラ・トムソン先生は、アメリカのワンヘルス教育で子供の時期など早い時期からの教育が必要であると言っていました。是非学校教育に取り入れて欲しいものです。大学教育にあっては、このコロナ禍で海外との交流を停滞した時期がありました。早急に交流を積極的に行いコミュニケーション感覚、国際感覚等の求めに答えるためレベルアップするとともに、冒頭に紹介した教育機関の先進国・地域から認証されるよう取り組まなければならないと感じています。



福岡県“One Health”国際フォーラム2022+FAVA

事務局

11月12日（土）13時30分から福岡市ヒルトン福岡シーホーク 1階の会場において、福岡県“One Health”国際フォーラム2022+FAVA（アジア獣医師会連合）が「ワンヘルス実践の今と未来 ～ 福岡からアジア、そして世界へ～」をテーマとして開催されました。

このフォーラムは、FAVA大会に併設された企画で、トップクラスの研究者が「福岡宣言」がなされた福岡の地からワンヘルスアプローチの研究成果を世界に向けて発信するため、令和2年から開催されています。

なお、福岡県知事がこのフォーラムの大会委員長を務めており、FAVA大会登録者であっても、参加には、新たに受付で氏名や住所等を登録する必要がありました。

フォーラムは開会式・基調講演・県民講座と分科会が2日間にわたって開催されました。また、分科会は、①国際機関による取組セッション②行政における取組セッション③民間団体等の取組セッションに分かれていました。

今回、開会式・基調講演・県民講座に参加しまし

たので、その内容をお知らせします。

開会式

主催者である福岡県 服部誠太郎 知事の挨拶の後、4名の方々の挨拶がありました。

なお、司会者が福岡県知事を紹介する際に、副知事とアナウンスするアクシデントがあり、会場に大きな笑いが起こりました。

服部誠太郎 福岡県知事挨拶

皆様、このフォーラムに参加して頂きありがとうございます。

このフォーラムは、新型コロナウイルス感染症、MERSなどの人獣共通感染症に対して、世界の研究者がワンヘルスの考えに基づき解決するために開催しており、今回で3回目を迎えました。

今回は、世界医師会長と世界獣医師会長とお招



Fukuoka OHIF, 2022+FAVA
**福岡県“One Health”
国際フォーラム2022
+FAVA**

参加無料

会期 令和4年11月12日▶13日
現地開催(同時ライブ配信)
後日アーカイブ配信有り

会場
ヒルトン福岡シーホーク
(〒810-8650 福岡県福岡市中央区地行浜2-2-3)

きし講演を行います。非常に貴重なことで、皆様、しっかりと聴講願いたいと考えています。

また、県民講座は、動物の保護活動に活躍されている俳優の坂上忍さんをお招きしました。ヒトと動物との共生社会についてお話しして頂きます。

なお、本日から舞鶴公園（福岡城）の三の丸にワンヘルスパークをオープンしました。パークでは、乗馬体験やドッグランなどの施設を設置していますので、体感して頂きたいと思います。

また、福岡県の農林水産祭を中央公園で開催しています。福岡県が推奨している化学肥料を減らした福岡県ワンヘルス制度認証による農産物が販売されています。

さらに、福岡県では「四王寺県民の森」を「ワンヘルスの森」と改名しました。今後は、学習展示館にヒトと動物と森林の関わりなどを解説する展示物を整備しワンヘルスを理解してもらうためガイドを育成することとしています。

このような本県の取組を評価して頂き、この福岡にFAVAワンヘルス福岡事務所を開設する決定がなされました。今後も福岡から世界に向けて情報を発信して参ります。

また、福岡には国連ハビタット（UN-Habitat）福岡本部事務所があります。ハビタットは、より住みやすい環境作りを目指して設立されています。福岡県は、ハビタットとも連携し人と動物との健康と環境保護を目的にワンヘルスを推進します。

日本医師会長（角田徹副会長代読）挨拶

感染症予防、人獣共通感染症、長期にわたる新型コロナウイルス感染症対策について、獣医師の皆様にお世話になっております。

現在、エボラ、サーズ、マーズ、新型インフルエンザなど動物から人への感染だけではなく、一部の感染症はヒトから犬や猫に感染を誘発させています。

家畜や野生動物間の感染症のまん延防止のために

はヒトの医療や獣医療技術によるアプローチが重要です。

新たな感染症を発生させないため、ヒトと動物の健康と地球環境とを一体的に定義するワンヘルスの考え方が重要で、このワンヘルスを国民の皆様に認識させ実践させることが必要だと日本医師会も認識しております。

日本医師会と日本獣医師会は、このような新型又は新興感染症の流行を踏まえ2013年にワンヘルスに基づく学術協定を締結しました。

2016年には「第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議」を北九州市で開催し、実践の礎となる福岡宣言を採択しました。我々は、今回の新型コロナウイルス感染症についても密接に連携協力を行っています。

このフォーラムに参加している医師や獣医師、他の方々の御尽力により、アジアから新たなワンヘルスアプローチを発信することを祈念いたします。

日本獣医師会 藏内勇夫 会長挨拶

ヒトと動物の命はひとつ、それは地球の願いという活動を通じて日本獣医師会はワンヘルスを推進しています。



私が日本獣医師会会長に就任した際、第19代日本医師会長横倉会長から東京でお祝いしようとの話がありました。

私と横倉会長は、福岡県筑後市の出身で、「この田舎者2人が日本を代表する公益法人の会長になったからには、一緒に何かやろう。」ということになり、ワンヘルスの普及と実践を行うこととしました。

その後、2013年11月に日本医師会と日本獣医師会とが協定を締結、その1か月後に福岡県医師会と福岡県獣医師会とが協定を締結しました。現在では、47都道府県にこの輪が広がっています。

また、2016年に北九州市で第2回国際ワンヘルス会議を開催しました。

このような関係から福岡県がワンヘルスの原点となっています。今日では、国連機関の会議、G7 COP21機関においても福岡県のワンヘルスが話題となり、国内では岸田総理大臣が国会において「福岡のワンヘルスの取り組みはすごい」との答弁を頂いております。

我々の提唱するワンヘルスは、COVID-19の対症療法ではありません。やがて、次の新しい感染症が発生するであろう、その時の備えとして我々が活動し実践するのがワンヘルスです。

今日、国内でいつ大規模な災害が発生してもおかしくありません。災害は、気象災害、地殻災害、ウイルス・細菌による生物災害と定義されます。災害であることから、それに備えることが肝要です。

FAVAの活動は幅広いものですが、福岡市にワンヘルスに特化した事務所を設置することとなりました。また、みやま市に設置する福岡県のワンヘルスセンターと連携し、福岡からワンヘルス運動を世界中に広めて参ります。

福岡県議会 桐明和久 議長挨拶

本日、福岡県議会から30名以上の議員が出席しています。福岡県全体となってワンヘルスを推進している表れです。今回、FAVA大会と、このフォーラムを同時開催することで福岡県から世界に情報を大きく発信できるものと考えています。

特に本県では、平成28年11月に北九州市で開催された「第2回世界獣医師会・世界医師会“One Health”に関する国際会議」において、ワンヘルスの理念を実践する上で基盤となる「福岡宣言」がまとめられました。

さらに、令和2年6月の福岡県議会定例会で、条例制定を含めた「人獣共通感染症への対応力の強化に関する決議」が議決され、議員提案により、全国で初めてワンヘルスの推進を掲げた「福岡県ワンヘ

ルス推進基本条例」を制定しました。

また、今年には「ワンヘルスの実践推進に係る条例」を策定して、ワンヘルスを気軽に推進するようにしました。今回、FAVAワンヘルス福岡事務所が設置されることとなりました。本県は、世界的なワンヘルスの推進地となることを目指します。

福岡市長（荒瀬泰子副市長代読）挨拶

「ワンヘルス実践の今と未来 ～ 福岡からアジア、そして世界へ～」をテーマとして第3回のフォーラムが福岡市で開催されることとなりました。

現在、ワンヘルスの推進が急務となっており、この大会による成果を期待しています。

福岡市は国際空港や博多港を抱える国際都市であり、来年7月には世界水泳大会を開催することとなっています。国際化の中において、新興感染症や人獣共通感染症は重要な課題となっています。福岡市は、国際都市として市民が安全に暮らせるため、あらゆる感染症に対して対応できる感染症対応シティの実現に向け取り組んでいます。

また、福岡県医師会、福岡市獣医師会と連携して狂犬病対策や動物愛護に一生懸命に取り組んでいるところです。

人・動物の健康、環境の保全是一体的なものであり、ワンヘルスの理念をこの機会に市民の皆様に浸透させたいと考えています。

基調講演

世界医師会長、世界獣医師会長、国連環境計画生態系部局生物多様性・陸上生物部門責任者（ビデオ参加）の3氏によって基調講演が行われました。

1 ワンヘルス:世界医師会における展望

Osahon Enablulele会長

ワンヘルスとは、ヒトや生態系の健康を持続的に最適化することを目的した有効な統合アプリケーションと考えます。世界医師会は、医療システムの強化、感染症のリスク軽減及び耐性菌問題について、様々な提案を行ってきました。



これには、資源の有効活用や感染症の早期発見と対応・管理のための包括的な監視体制などが含まれます。

しかし、貧弱な政治姿勢、曖昧な概念、弱い社会体制などの影響により対策を大きく前進させる事はできませんでした。

これを改善するためには、①医療システムの強化と投資拡大と政治的発言力の強化 ②学術及び他の部門の連携強化 ③包括的な監視メカニズム、研究、データ及び情報の共有 ④学部及び大学院のトレーニングカリキュラムへの統合と強化 ⑤薬剤耐性菌対策が重要です。

One Healthアプローチは、人間と動物の健康、私たちの環境と生態系を確保するために必要です。

2 世界獣医師会におけるワンヘルス推進の取組と現状

Rafael Laguens会長

世界獣医師会にとってワンヘルスは、獣医学を超えた専門分野との連携です。

世界獣医師会ワンヘルス作業部会は、ワンヘルスを理論上の概念から人、動物、植物、環境に係る健康維持につい



て、実践的なものとして取り組むことを目指しています。

「ワンヘルス」ハイレベル専門家パネル(OHHLEP)にWHO(世界保健機関)、FAO(国連食糧農業機関)、WOAH(世界動物保健機関(旧OIE 世界獣疫事務局))に加え、UNEP(国連環境計画)が参画することになりました。

世界獣医師会は、清潔な水と空気、エコエネルギー、安全で栄養価が高い食べ物を人類に提供し気候変動への対策と持続可能な開発に貢献するよう努力します。この取り組みを推進するためには、情報の収集と共有が必要です。また、各部門における適切な訓練と連携が重要です。

3 国連環境計画におけるワンヘルスの取組と今後の課題(ビデオ講演)

Doreen L.Rpbonsom国連環境計画専門員

地球が健康であることは、健康なヒトや動物にとっての前提条件です。しかし、現在、人類と自然との関係が壊れかけており、気候変動、生物多様性の喪失、廃棄物による汚染は、健康被害のリスクを高めています。

これらの環境問題に取り組むことで、私たちはヒトの健康を守り医療システムへの圧力を軽減することができます。国連環境計画UNEPは、One Healthの環境的側面を強化します。

2020年11月12日、パリ平和フォーラムにおいてフランス主導で「ワンヘルス」ハイレベル専門家パネルが設置されました。メンバーは、世界保健機関、世界動物保健機関、国連食糧農業機関、国連環境計画の各機関によって選ばれた専門家で構成されています。

パネルでは、人間、動物、環境のそれぞれの健康への関係に関する科学的情報を取りまとめ、生物多様性への負荷を低減し動物由来感染症の発生リスクを軽減するため、研究と提言を行います。

現在、耐性菌に対して共同して対処する戦略的な

計画を開始しています。

自然と調和して生きる将来のため、我々は様々な原因に対処するため、積極的に投資する必要があります。

県民講座

1 坂上忍トークショー

司会者との掛け合いで俳優の坂上忍さんによるトークショーが開催されました。



なお、坂上忍さんは、現在、千葉県で一般社団法人

「さかがみ家」(動物保護施設)を自力で運営しており、次の内容のお話がありました。

仕事以外では、動物と一緒に暮らしています。

私は、犬を12匹、猫を12匹飼育しており、保護施設である「さかがみ家」でも変動がありますが同数の動物を飼育しています。

朝3時30分に目覚め、動物の世話をしてから仕事に行きます。動物の世話は、飼い主の最低限の義務で面倒なことはありません。

現在、動物中心で考え活動することで、仕事に対するエネルギーを動物から貰っています。多くの動物保護団体は、ボランティアや寄付、クラウドファンディングで運営していますが、限界があると考えています。

特に、ボランティアを中心とする保護では、システム自体が破綻する可能性もあります。私が自力運営をやっていくことで、少しでも動物保護のお役に



立てたらと考える「さかがみ家」を運営しています。

ヒトと動物との共生がなによりも重要なことで、動物に対する考え方を一人一人に今一度考え直してほしいと思います。

2 鼎談

トークショー終了後に服部福岡県知事、藏内日本獣医師会会長、坂上忍さんとの鼎談が開催されました。鼎談の主な内容は、次のとおりで、服部知事が最初と最後を結びました。

服部知事

福岡県では、令和2年12月、本県議会において、ワンヘルスの実践に関する条例として、全国で初めて「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が議員提案により可決成立し令和3年に施行しています。

また、「福岡県ワンヘルス推進行動計画」を作成し、①人と動物の共生社会の実現 ②人と動物は同じ命 ③殺処分を減らす取り組み ④マイクロチップや鼻紋認証の普及 ⑤災害時の体制づくりを実施しています。

坂上

福岡県と獣医師会とが連携しており、ここまでやっているのがうらやましい。

千葉県の熊谷知事にもワンヘルスや動物愛護に力を入れるよう何とか働きかけをお願いしたい。藏内会長は、なぜ動物愛護の仕事をしようと思ったのですか。

藏内会長

若い時にある女性から「国内には公の動物愛護団体がないから、これをしなさい」と言われた。

その女性は、英国の社交界で「日本の動物愛護はなっていない。ヨーロッパでは動物は伴侶・家族です。」と言われたそうです。

その方は、吉田茂のお嬢さんで麻生太郎のお母さんの和子さんです。

しかし、私一人の力では何ともならなかったので、麻生太郎さんを使っていいかと和子さんに尋ねまし

た。そうしたら、「太郎でも、何でも使っていい。」
と言われ、動物愛護団体の初代の理事長になっても
らいました。それから40年近くなりました。

坂上

お話のとおり、先進国である日本の動物愛護は、
恥ずかしい限りと感じています。そこで、私が現在
できることをしています。仕事として動物達と向き
合い、人から人へと繋いで行く仕事です。

また、職業化することで働いている人の生活を守
り、動物達を守って行きたいと考えています。

一方、災害対策も重要でこれに備える施設も必要
と考えています。これが国内にはないので、災害時
には、可能な範囲で協力したいと考えています。

藏内会長

実は、九州にはペットシェルターがあります。

東日本大震災では、動物のことを考えず自分達だ
けが逃げた。これを契機に、日本では災害時にペッ
トと一緒に逃げるということ考えるようになりました。

そうしたら、九州電力に使っていない保養施設が
あるのを思い出しました。そこで、「この施設を動
物のための避難センターとして貸してほしい。」と
社長に会い行きました。なんと、社長は、二つ返事
で貸してくれました。

大分県九重町にある「九州災害時動物救援セン
ター」です。熊本大震災の際には、ここに100頭の
動物を預けることができました。

坂上

僕は自腹で施設を運営しています。このような施

設があれば僕は楽ができたと思います。

会長や知事は、是非とも千葉県知事に意見を言っ
てください。

僕は、僕なりに動物と向き合い、目標に向かって
頑張ります。

本当に、うらやましい。九州には藏内会長や服部
知事がいます。大人がやることをやって、頑張って、
そのことを子供達が見て学ぶ。それが、福岡県で実
現されています。

藏内会長、是非とも千葉県に来ていただいて、こ
のような動物愛護の催を行ってください。

藏内会長

よろこんで、千葉県に行かせてもらいますよ。

坂上

本当ですか。ここにいる皆さんが証人となります
よ。大丈夫ですか。(笑い)

藏内会長

大丈夫です。千葉県に行かせてもらいます。
動物は、ヒトに大きな影響を与えます。手術する子
供の傍に犬がいると血圧が落ち着き、回復も早いと
言われています。

人間は、地球上で一番偉いと勘違いしています。

服部知事

動物のお世話をしてから仕事に行く、ワンヘルス
は我々の日々の実践です。

人と動物の命は同じ、そしてそれを育てているの
は地球ということを皆さん理解して頂きたい。

福岡県は、皆さまの幸せのためワンヘルスを今後
も推進していくこととしています。



アジアワンヘルス福岡宣言2022

事務局

11月13日（日）16時から、福岡市ヒルトン福岡シーホークにおいて「アジアワンヘルス福岡宣言2022」調印式が行われました。

立合人は、福岡県 服部知事と福岡県議会 桐明議長で、藏内会長の宣言書の署名の後、FAVA大会に参加したアジア各国の代表者が演壇に並びました。

また、藏内会長から「福岡の名が盛り込まれた宣言がアジア・世界に向けて発信されたことを大変光栄に思います。地球上のすべての命を守るためワンヘルスを推進させます。」との挨拶がありました。

【アジアワンヘルス福岡宣言2022】

ワンヘルスは、動物と人の共生社会づくり、生物多様性や環境の保全などによって、地球や社会の持続的な発展を目指している。現在、世界では、COVID-19、新型インフルエンザ、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など人と動物の共通・新興感染症の国境を越えた発生や、薬剤耐性（AMR）が大きな課題となっている。このようなことから、FAVA加盟国は、連携・協力してワンヘルスを実践しなければならない。我々FAVA加盟獣医師会及び所属する獣医師は、ワンヘルスの先進地である福岡県において開催された第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会の成果を踏まえ、「FAVA戦略プラン2021-2025」に基づくワンヘルスアプローチを一層発展させ、その実践活動をアジア・オセアニア地域から世界に向けて発信することを決意し、以下のとおり宣言する。

1. 新興・再興感染症を含む人と動物の共通感染症の予防及びまん延防止に万全を期すため、

感染源、感染経路及び宿主対策についての調査・研究体制を整備するとともに、情報の共有に努める。

2. 薬剤耐性菌が医療と獣医療において重大な脅威となっていることから、抗菌剤の慎重かつ適正な使用を徹底し、薬剤耐性（AMR）対策を推進する。
3. 動物と人が共生する社会を構築するため、生物多様性の維持や地球環境の保全を積極的に推進する。
4. 獣医学教育の更なる整備及びワンヘルスアプローチによる国際連携により、WOAH（OIE）Day One Competencies（獣医師が具備すべき知識・技能・態度）を有する獣医師の育成に取り組む。
5. 医療関係団体、行政機関、市民団体及び大学、WVA、WOAH（OIE）、WHO、FAO、UNEPなどの国際機関と協力し、ワンヘルスの課題解決と推進に取り組む。
6. アジアにおけるワンヘルスの課題への研究と児童、生徒及び市民に対するワンヘルス教育の普及のために、FAVA活動の拠点を整備・強化する。



令和4年度東北地区獣医師大会概要報告

事務局

1 はじめに

令和4年度東北地区獣医師大会が9月15日（木）に岩手県盛岡市のアートホテル盛岡で3年ぶりに対面で開催されました。



大会会場の状況

初めに大会長である岩手県獣医師会の佐々木一弥会長と日本獣医師会の藏内勇夫会長より挨拶があり、次に獣医学術東北地区学会賞および東北獣医師会連合会長賞の授与が行われました。



表彰を受ける受賞者

次いで祝辞は、農林水産省消費・安全局長、環境省自然環境局長、厚生労働省健康局長、岩手県知事、盛岡市長からいただきました。

2 議事

その後、議長に岩手県獣医師会の御領政信先生、副議長に同じく岩手県獣医師会の辻本恒徳先生を指名し、議事が執り行われました。



議長の御領先生、副議長の辻本先生

宮城県獣医師会から「産業動物診療獣医師・公務員獣医師の確保対策」として、医療職俸給表（一）の適用又は獣医職給料表を創設し、処遇改善することなど、また山形県獣医師会から「豚熱防疫対策に係る日本獣医師会からの働きかけ」として、今後の対策方針の決定にあたり現場の意見を十分に反映していただくことなどの提案がありました。どちらも喫緊の課題であり、満場一致で日本獣医師会に要望することが承認されました。



宮城県・山形県獣医師会の発表者

3 市民公開特別講演

議事終了後に、市民公開特別講演として旭山動物園園長の坂東元先生が、「伝えるのは命、繋ぐのは命」と題して講演されました。坂東先生は、日常のスタイルである作業服で全国各地を講演しており、当ホテルの従業員に「どちらの業者さんですか？」と声を掛けられたそうです。

講演では、「命は常に次の世代につなぐために存在しており、今を生きるものが今をとりつくりうことだけを考えるようになっては、未来はありません。旭山動物園は飼育動物の命、地球の命を繋ぐことを目標に日々の飼育に取り組んでいます。」と言っておられました。



講演中の坂東先生

4 教育講演

教育講演として農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課 課長補佐 白尾紘司先生が、「獣医療をめぐる情勢～獣医師に求められる倫理観や最近の獣医療提供体制について～」と題して講演されました。

講演では、獣医師の活動分野の状況や世代間の状況、特に産業動物獣医師が偏在している状況、また農林水産省の産業動物獣医師の育成・確保対策等について話されました。最後に令和5年2月19日に第1回愛玩動物看護師国家試験が行われることから、それに係るスケジュールについても説明されました。

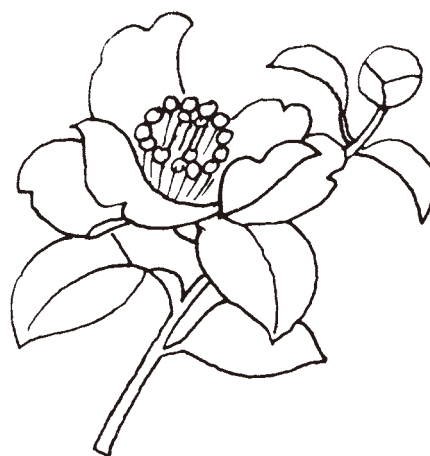


講演中の白尾先生

5 次回主催者挨拶

最後に次回の主催者である宮城県獣医師会の渡邊清博会長から挨拶をいただき、大会は無事終了しました。

なお、今大会への参加者は226名、そのうち本県からの参加者は15名でした。



議

事

公益社団法人日本獣医師会に対する要望（案）

（1）産業動物診療獣医師・公務員獣医師の確保対策

（公益社団法人宮城県獣医師会）

鳥インフルエンザ、豚熱等の発生を契機として、家畜伝染病に対する関心が高まっており、また、新型コロナウイルス感染症等の発生により、新興・再興の人と動物の共通感染症の脅威に深い関心も寄せられている。このような状況の中、畜産経営体から産業動物に関与する獣医師に対して、適切な獣医療の提供、家畜の損耗防止、農場単位での「飼養衛生管理基準」に基づく的確な飼養管理指導等の幅広い専門技術・知識提供が求められている。しかし、産業動物医療や衛生指導の提供については、若手獣医師の新規参入の慢性的な不足や診療獣医師の高齢化等の課題が生じており、公務員の分野においても同様の傾向である。産業動物に携わる獣医師不足は、畜産生産基盤の脆弱化を招き、消費者へ国際競争力を確保しつつ安全安心な畜産物の安定供給への影響が懸念される。公益社団法人日本獣医師会は、産業動物に関与する獣医師の確保対策として、産業動物診療獣医師の需給動向調査・養成・就業の推進及び処遇改善等について検討を重ね、その要因が複数に及んでいることを指摘し対応してきている。しかし、就労する獣医師の分野間の偏在について、多くの議論がなされているが、根本的な対策を打ち出している関係機関は少なく足踏みの感がある。

以上のことから、これまで公益社団法人日本獣医師会及び地方会、公益社団法人中央畜産会、公益社団法人全国農業共済協会等が要望してきたことと重複する部分があるが、産業動物に携わる獣医師の確保のため、関係機関に対し下記について要望して頂きたい。

記

1. 国に対して、率先して国家公務員獣医師職員に対して医師・歯科医師職員と同様に医療職俸給表（一）の適用又は獣医職給料表を創設し、処遇改善するよう要望すること、併せて、地方自治体等に対しても、再度同様の要望すること。
2. 大学に対し、獣医学科入学者の大都市圏偏在の解消と産業動物に関与する獣医師の確保対策のため、再度地域枠入学者の拡充の要望すること。

(2) 豚熱防疫対策に係る（公社）日本獣医師会からの働きかけ

（公益社団法人 山形県獣医師会）

平成30年9月、わが国で26年ぶりとなる豚熱（豚コレラ）が岐阜県で発生してから4年が経過した。この間、発生農場の全頭淘汰による対応に加え、飼養衛生管理基準の厳格化、飼養豚への予防的ワクチン接種、野生イノシシの汚染低減に係る経口ワクチンの散布等様々な対策が執られている。しかし、現在でも散発的にワクチン接種農場において発生が認められている状況となっている。

豚熱対策は、「飼養衛生管理基準の遵守」、「感染野生イノシシ対策」、そして「適切なワクチン接種」という3本の柱で成り立っていることは言うまでもないが、その一つの重要な柱であるワクチン接種が効果的に実施できていないのではないかと不安が生じている。ワクチン接種農場の発生については、移行抗体消失時期のばらつきから生じるワクチン打ち遅れによる防御不能子豚群の存在が問題視されている。これは、母豚個体のバラつきに加え、母乳摂取状況による子豚個体のバラつきによるもので、これらを抑えることは不可能とも考えられる。今現在1頭でも感染豚が発見されれば、農場全ての豚が殺処分されるという判断に従えば、通常言われている群としての免疫状況8割では不十分で、子豚時期の10割免疫が必要であり、この為には、子豚期の2回接種が必要であるとする意見がある。また、このような発生において抗体を十分に持ちウイルスを防御していると考えられる肥育豚まで殺処分する必要があるのかという意見もある。

わが国の大部分でワクチン接種が行われ、全国どこであっても発生のリスクがある現在、会員の多くがこの問題に無関係ではいられず、大規模発生時や継続発生時には、獣医師会会員である家保職員や関係獣医師がその対応に疲弊している現場会員の状況を斟酌いただき、（公社）日本獣医師会には、農林水産省に対し、以下についてぜひとも強力な働きかけをお願いしたい。

○要望事項

1. 今後の対策方針の決定にあたり現場の意見を十分に反映していただくこと
2. ワクチン接種効果に係る試験研究と情報提供の迅速化

令和4年度獣医学術東北地区学会・産業動物獣医学会の概要

日本産業動物獣医学会東北地区学会幹事 森山泰穂
(青森支部 青森家畜保健衛生所)

令和4年9月16日、東北地区日本産業動物獣医学会(東北地区)がアートホテル盛岡において開催されました。その概要を報告いたします。

久しぶりの対面形式による研究発表です。コロナ禍真っ最中の昨年、オンデマンド形式で開催された本学会には、何度もじっくり発表を見られる、ゆっくり考えた質問ができるなど、新しいメリットの発見がありましたが、やはり学会には対面形式が馴染みます。冒頭、高橋透地区学会長による「我々獣医師に課せられた大切なミッションの一つは学術の振興である。」という挨拶に始まり、緊張感とライブ感のある研究発表はエキサイティングでした。

コロナ感染防止対策をしっかりと構築しながら対面開催を選択し、無事実行して下さった岩手県獣医師会並びにスタッフの皆様にご心より感謝したいと思います。

本学会の醍醐味は何と云っても家畜診療施設、大学、家畜衛生行政、酪農農業協同組合といった幅広い立場からの研究発表が一堂に会することではないでしょうか。当日発表された演題は17題。研究分野ごとには、産業動物臨床7題、家畜保健衛生9題、酪農飼養管理1題でした。

臨床分野の発表では、貴重な症例報告のほか生産現場での試験研究もあり、様々なファクターが介在する現場にあっても「何かしら見い出してやる」という意志や気概が感じられました。

家畜衛生分野からは、症例報告、病原体の解析、伝染病診断に係る新たなツールの組上げ、豚熱防疫など幅広い知見が披露されました。

飼養管理分野として福島県酪農協が発表した牛舎

屋根の遮熱塗料の研究は、現状の生産性向上だけでなく、益々の苛烈化が危惧される気候への備えとしても非常に有意義な取組だと思いました。

発表が興味深いものであるほど聞いてみたいことは溢れます。まして、普段の職域と異なる分野の発表であれば尚更のこと。その点からすると、質疑応答2分という時間の短さが歯がゆく感じられました。新知見の発表に盛んなディスカッションが重なってこそ「学術の振興」の姿ではないかと。

発表された17題について、選考委員9名で慎重な審査を行った結果、次の3題を選出しました。

○獣医学術東北地区学会長賞

演題14：豚呼吸器複合病に関連する16種の病原体を検出するマルチプレックスRT-qPCRの設計と野外応用(五嶋祐介ら、岩手県県北家保ほか)

○東北獣医師会連合会長賞

演題9：岩手県における病性鑑定材料由来基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ産生大腸菌の分離状況(市村鋭ら、岩手県中央家保ほか)

○獣医学術東北地区学会奨励賞

演題3：貧血及び黄疸を伴うT細胞性腫瘍が疑われた黒毛和種繁殖雌牛の1症例(九十九美月ら、岩手県農共県北基幹家畜診ほか)

令和4年度獣医学術東北地区学会・ 日本小動物獣医学会に参加して

日本小動物獣医学会東北地区学会幹事 伊藤直之
(三八支部 北里大学)

令和4年9月16日に岩手県獣医師会の担当で、アートホテル盛岡を会場として、令和4年度の日本小動物獣医学会（東北地区）が開催されました。

地区会長による開会の挨拶後、前年度奨励賞の授与式が行われ、今年度の演題の発表に移りました。

今年度の発表演題数は37題であり、青森県からの演題は4題でした。なお、各獣医師会別の発表演題数は、下記の通りです。

青森県	4題
岩手県	15題
秋田県	3題
山形県	2題
宮城県	3題
仙台市	4題
福島県	6題

青森県から発表の4演題は、次の通りです。

- ・ネコの貯留便の超音波検査による比較検討
竹原律郎ほか（ふれあい動物病院）
- ・犬におけるフェンタニル持続静脈内投与後のブトルファノールによる鎮痛効果
伊志嶺博己ほか（北里大学）
- ・イヌにおけるデクスメデトミジン鎮静下でのリドカイン持続硬膜外投与
尾方健祐ほか（北里大学）
- ・当院に来院した猫の血清アミロイドA（SAA）に関する臨床調査
内山結美子ほか（ふれあい動物病院）

講演終了後、地区学会幹事による各賞の選考委員会が開催され、厳正な審査の結果、受賞演題が以下のように決定しました。

東北地区学会賞（2題）

日本小動物獣医学会（東北）

- ・*Taenia crassiceps* が寄生していたチンチラの一例

澤田浩気ほか（ラビッツ動物病院・福島県）

- ・胆嚢皮膚瘻の犬の1例

小山英志ほか

（仙台獣医師会総合どうぶつ病院・仙台市）

東北獣医師会連合会長賞

日本小動物獣医学会（東北）

- ・椎体骨折に伴う局所性脊髄空洞症に対して背側椎弓切除術を実施した猫の一例

中田浩平ほか（岩手大学・岩手県）

奨励賞

日本小動物獣医学会（東北）

- ・イヌにおけるデクスメデトミジン鎮静下でのリドカイン持続硬膜外投与

尾方健祐ほか（北里大学・青森県）

コロナ禍の影響で一昨年は開催中止、昨年はWeb開催となった本学会ですが、今年は厳重な感染対策を行い、3年ぶりの対面での開催となりました。会場のあちらこちらに、参加者同士が久しぶりの再会を喜ぶ姿がみられました。学会は質疑応答が活発に行われ、充実したもので、改めて対面での開催の重要性を実感しました。一方で、以前にも指摘したことですが、演者の所属に固定化がみられ、残念な感じがしました。もっと多くの先生方が、多様な側面から発表し、本学会を盛り上げて頂きたいと思いません。

令和4年度獣医学術東北地区学会・ 日本獣医公衆衛生学会の概要

日本公衆衛生獣医学会東北地区学会幹事 吉田 繁成
(上十三支部 十和田食肉衛生検査所)

令和4年9月16日(金)、岩手県盛岡市(アートホテル盛岡)において、令和4年度獣医学術東北地区学会日本獣医公衆衛生学会(東北地区)が3年ぶりに参集・対面式で開催されました。(令和2年度中止、令和3年度オンライン開催)

開催に先立ち令和4年度獣医学術東北地区学会実行委員会が産業動物、小動物、公衆衛生の各部に分かれて行われ、上野東北地区学会長から審査を受け持つ幹事(座長を兼ねる)に対し学会進行や演題審査の注意説明がなされた後、会場を移し、予定どおり(午前9時)公衆衛生学会が始まりました。

上野東北地区学会長の挨拶、昨年度の獣医学術東北地区学会奨励賞を獲得した宮城県仙台市食肉衛生検査所「動物用医薬品に対するプレミテストの感受性調査」の表彰、日本獣医公衆衛生学会長挨拶の後、各県から応募のあった13題(青森県3題、岩手県6題、秋田県2題、宮城県2題。食品衛生や食肉衛生関係、動物衛生関係、感染症関係まで幅広い内容で、対面形式の発表会における演者の緊張と活発な質疑の応酬に、コロナ禍前の雰囲気がよみがえりました。)が発表されました。

演題発表終了後、審査員10名で構成する審査会の結果により、次の各賞が決定しました。

- 獣医学術東北地区学会長賞
Escherichia albertii の豚における浸潤状況調査及び分離方法の検討
秋田県食肉衛生検査所 須田 朋洋 ほか

- 東北獣医師会連合会長賞
キタイワトビペンギンに発生したフソバクテリアウム感染症
岩手大学(獣医病理) 森山 千寛 ほか
- 獣医学術東北地区学会奨励賞
ペットバードの肝疾患の分類と微孢子虫感染率
岩手大学(獣医病理) 小澤なつめ ほか

受賞された方々、誠におめでとうございます。

また、日常業務が忙しい中今回発表いただいた皆様に対し感謝申し上げます。

今後とも、獣医学術の振興及び調査研究並びに獣医師の人材育成の推進を図る目的のもと、各会員の協力によりこの獣医学術東北地区学会が盛況に開催されますよう心より期待します。



動物愛護フェスティバル2022「ペットとともに 一歩ずつ 一緒に」

青森県動物愛護センター

青森県動物愛護センターでは、動物愛護フェスティバル2022を「ペットとともに 一歩ずつ 一緒に」のテーマのもと、去る令和4年9月24日（土）から25日（日）までの2日間、青森市の当センターを会場に3年ぶりに開催したのでその概要を報告します。

このフェスティバルは、毎年、動物愛護週間（9月20日～26日）の期間中に、青森県、公益社団法人青森県獣医師会及び青森県動物愛護協会とともに共催しているイベントでしたが、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は収束する兆しが見られず、これまでやむなく中止とせざるを得ない状況が続いておりました。しかしながら、今般、来場者の記名確認やマスク着用の徹底、出入口の一方通行等の感染症対策を行ったうえであれば開催できると判断し、各団体やボランティアの皆様の御協力を頂きながら開催にこぎつけ、お陰様で無事終えることができました。



ホールで行われたセレモニーの様子
(挨拶をする橋端所長㊦、木村愛護協会会長㊦、小山田獣医師会長㊦)

フェスティバル1日目は、小雨が降る中でのスタートとなりました。まずは青森県愛玩動物協会様によるドッグダンスのステージです。天気の良いけれ

ば屋外のステージで行う予定でしたが、あいにくの雨でホールでの披露となりましたが、わんちゃんたちの楽しそうな表情が伺えました。



ホールで行われたドッグダンスの様子

続いてのプログラムは動物愛護ポスターの優秀作品に対する表彰式でしたが一向に雨が止まず、引続きホールで行いました。動物愛護ポスターは、動物愛護への理解を深めてもらう目的で、毎年県内の小中学生から作品を募集しており、今年は小学生から10校16点、中学生から14校37点の計53点の応募がありました。いずれも力作でしたが、今年の特徴としては、去る令和4年6月1日からペットショップ等で販売される犬猫に対してマイクロチップ装着が義務化されたこともあって、マイクロチップを題材にしたポスターが目にとまりました。

応募作品の中から青森県知事賞、青森県獣医師会長賞、青森県動物愛護協会会長賞が優秀作品として小学生、中学生それぞれ1点ずつと入選作品8点が選ばれました。

表彰状は出席した各賞受賞者に対して記念品の図書カードとともに手渡され、皆さん緊張した面持ちで受け取っておりました。青森県知事賞は、当セン

ター橋端所長が知事代理で、青森県獣医師会長賞は小山田会長から、青森県動物愛護協会会長賞は木村会長から授与されました。応募作品は全て当センター廊下に来年の動物愛護週間まで約1年間展示しておりますので、お立ち寄りの際はぜひ御覧ください。



各賞受賞者作品一覧
(上段：獣医師会長賞⑤ 知事賞④ 協会会長賞⑤ 下段：入選)

その後雨も上がり、動物慰霊碑前に移動して動物の供養祭を行いました。小山田青森県獣医師会長、木村青森県動物愛護協会会長、そして命の花プロジェクト（殺処分された動物たちの骨を土に混ぜて花を育て、命の尊さを伝える活動）を行っている三本木農業恵拓高等学校のみなさんが御参列くださり、参列者は順に慰霊碑に献花し、黙祷を捧げました。



慰霊碑前で行われた供養祭の様子

午後からは屋外ステージで青森県愛玩動物協会様によるわんちゃんのしつけ教室が行われました。このプログラムは事前に複数の問い合わせが来るほど注目度が高く、多くの来場者がわんちゃんと一緒に参加していただきました。クレートトレーニングやお散歩の練習等わんちゃんとの日常生活ですぐに使

えそうなしつけを教えてもらい、参加した来場者はその場で愛犬たちと練習していました。

これをきっかけに、お家での練習も頑張ってもらいたいものです。



屋外ステージで行われた、しつけ教室の様子

2日目は晴天に恵まれ、正面玄関には朝10時の開場を待つ来場者の長蛇の列ができ、駐車場は数十分で満車となり、入りきらなかった車が車道に列を成しておりました。この光景を見て来場者の皆さんもこのイベントを心待ちにしてくださっていたのだと思いました。



2日目玄関前の行列の様子

2日目のプログラムの最初は、北東北捜索犬チーム様による災害時の捜索デモンストレーションが行われました。通常の歩行訓練に加え、普段はなかなか見られない瓦礫の中から被災者を救出する訓練の様子などをお披露目してくださり、大変貴重な機会となりました。デモンストレーション終了後も会場からどうすれば訓練士になれるのか？とか被災地で

は捜索に当たる救助犬は足を怪我することはないのか？など活発な質疑応答があり、とても有意義なプログラムだったと思います。



捜索デモンストレーション（訓練士との歩行訓練）



捜索デモンストレーション（瓦礫の中から被災者を発見！）

午後のプログラムは、芝生の広場でチームKUMA様によるフライングディスクドッグショーが行われました。全力で投げたディスクを追うわんちゃんたちがとても楽しそうで、観客も引き込まれていました。ディスクドッグショーに出演した数頭のわんちゃんのうち、中には気分の乗らないわんちゃんもおり、会場は笑顔に包まれました。

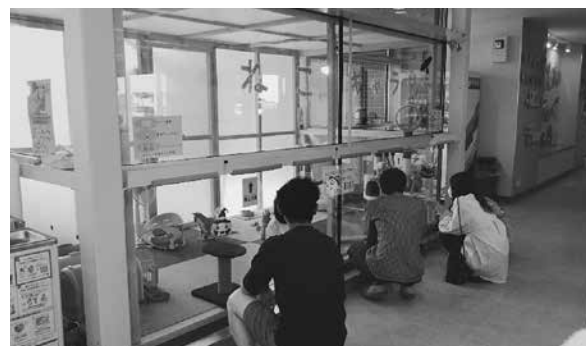


フライングディスクドッグショーの様子

これまでのイベントで人気プログラムだった「犬猫のふれあい」は、今回のイベントでは感染症対策で密を避けるためと動物のストレス軽減のために取りやめました。そして、新しいイベントの形を模索した結果、観て遊ぶイベントへ転換することとし、ねこギャラリーのねこ展示、犬の世界体験コーナー（犬の視覚・嗅覚体験）、地域猫活動相談、獣医さんなりきり体験など大人もお子さん方も楽しく学べるプログラムをたくさん用意して開催しました。

もちろん、全く動物との触れあいをなくしたわけではなく、ウサギのふれあいコーナー、乗馬体験はこれまでどおり行いました。特に乗馬体験は大人気ですぐに長蛇の列ができ、ウサギのふれあいコーナーとともに大賑わいを見せました。その他、災害時の同行避難の啓発コーナー、簡易トリミング、わんちゃん免許証作り、愛玩鳥展示・工作コーナーなども大盛況でした。

観て遊ぶイベントの目玉のねこギャラリーは、当センターのねこ室は手狭だったことから、ホール横の廊下にねこギャラリーを急遽作り、ここにねこを展示して3方向からねこを観ることができるようにして、来場者の密を避けることができるように工夫しました。



ねこギャラリーのねこ展示

そしてもう一つの目玉の犬の世界体験コーナーでは、犬の目線では人はどのように見えるかコーナー、動体視力体験コーナー、色覚体験コーナー、嗅覚体験コーナーを設けて犬の世界を直接体験して観て遊べる工夫も行いました。このコーナーは、犬の視覚・嗅覚を直観的に体験できるので好評だったと思います。



犬の世界体験コーナー（犬の目線では人はどのように見えるか）



大人気の乗馬体験



地域猫活動の相談コーナー



簡易トリミングの様子



獣医さん なりきり体験の様子



災害時の同行避難啓発コーナー

その結果、1日目は615名、2日目は1,452名の来場者にお出でいただきました。お出でいただいた様々な年代の方に動物愛護センターや各団体の取組みを御覧いただき、動物の命の大切さを感じただけの良い機会になったのではないかと思います。

感染症対策という制約がある中での運営でしたが、各団体やボランティアの皆様にご協力いただき、動物愛護週間イベントとして無事開催し、終わることができました。本当にありがとうございました。この紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。

今後とも青森県動物愛護センターへ御支援御協力をよろしくお願いいたします。



動物愛護センターパンフレット

ブロイラーの蜂窩織炎から分離された大腸菌の特徴と遺伝的背景

(公社) 青森県獣医師会食鳥検査センター

○中村 成宗、赤沼 保、木村美弥子、高橋 巧
小笠原清高、新谷 哲士、原田 邦弘、佐々木 亨

はじめに

ブロイラーの蜂窩織炎は皮膚外傷に起因し大腸菌が主な病原菌とされている。⁽¹⁾⁽²⁾

病変は、左右非対称性で大腿部、腹部、胸部及び総排泄腔周囲に形成され、胸部から外股部まで波及している症例も確認される。病変部の皮膚は、肥厚し皮下組織には水腫、黄色チーズ様滲出物が少量ないし多量に認められる。⁽¹⁾⁽³⁾

蜂窩織炎は、食鳥検査法に基づき大腸菌症として全部廃棄の対象となっており、2021年度の青森県ブロイラー大規模食鳥処理場（5施設）の廃棄率は平均0.25%で、大腸菌症により廃棄される個体の約36%を占めている。

なお、厚生労働省の食肉検査等情報還元調査は、食鳥検査法の疾病を対象としているため、蜂窩織炎の調査項目がなく、被害状況を全国の成績と比較することはできない。しかし、全国の大腸菌症の平均廃棄率が0.48%であることから、大きな被害と推定される。

さらに、大腸菌性蜂窩織炎と診断された鶏群では、その育成期に敗血症性大腸菌症が確認される場合が多いとの報告⁽⁴⁾や亜急性漿膜炎を併発しているとの報告⁽¹⁾⁽⁵⁾もあることから潜在的要因を含め、本病による経済的損失は大きいと考えられる。

この蜂窩織炎は、主に生産後期のブロイラー鶏で認められ、食鳥処理における脱羽後検査の段階で初めて確認される。そのため、国内で起因菌である大腸菌を分離し詳しく性状を調査した報告は少ない。

一方、敗血症など全身感染を起こす鶏大腸菌症は、鶏病原性大腸菌 (Avian pathogenic Escherichicoli 以下、「APEC」と言う。) による疾患で、大腸菌性蜂窩織炎はその局所細菌感染症と定義される。このAPECは、ヒトから分離される腸管外病原性大腸菌 (Extraintestinal pathogenic

Escherichicoli) にコードされる鉄捕捉因子や菌付着因子、タンパク分解酵素など共通な遺伝子を保有しているとされている。⁽⁶⁾

また、腸管はAPECのレゼルボアの役割を果たしている。⁽⁷⁾ 蜂窩織炎を形成し得る大腸菌が鶏大腸菌症非発症鶏の盲腸内に存在する⁽⁸⁾ など、鶏糞便性大腸菌 (Avian fecal Escherichicoli) の感染を示唆する報告がある。

さらに、漿膜炎を発生させる大腸菌が蜂窩織炎を惹起させるとの報告⁽⁵⁾ もあり、感染する大腸菌の由来について明らかにされていない。

そこで、今回、蜂窩織炎が確認され大腸菌症で全部廃棄された同一個体の糞便と蜂窩織炎の病変部から大腸菌を分離し、その特徴を比較し遺伝子型別により遺伝的背景を確認した。

材料及び方法

1 材料

2022年6月に大規模食鳥処理場に搬入された3農場のブロイラー (46~47日齢) について、食鳥検査で大腸菌性蜂窩織炎と診断された各個体10羽を対象とした。

菌分離のため、糞便由来は直腸から、蜂窩織炎由来は皮下病変部からシードスワブγ1号 (栄研化学 (株)) を用いて無菌的に拭き取り材料とした。

これら材料をDHL寒天培地で37℃24時間画線培養し菌を単離、TSI培地、LIM培地により生化学性状を確認した。

その後、PCR-based ORF Typing (関東化学 (株) 以下、「POT法」と言う。) により大腸菌特異遺伝子を検出し、糞便及び蜂窩織炎由来の大腸菌株として各30株を性状試験等に供した。

また、遺伝子検査のためのTemplate DNAは、普通ブイヨンで24時間35℃培養した菌液10μlについ

て核酸抽出キット（関東化学（株））を用い抽出した。

なお、過熱抽出の温度と時間は、72℃ 5分保持後5分間かけて95℃まで上昇させ5分間保持した。試験には、10,000rpm 5分間遠心しその上清を使用した。

2 方法

(1) 溶血性、運動性と糖分解能

5%羊血液寒天培地とLIM寒天培地を用いて常法に従い溶血性と運動性を確認した。

また、糖分解能はラフィノースとシュクロースを確認することとし、常法に従いフェノールレッド加ペプトン水に1%の割合で各糖を調整し35℃で培養し確認した。

(2) 血清型

鶏の感染症から多く分離されると言われているO1、O8、O15、O18、O25、O78、O111及びO161型のO抗原について、市販の病原性大腸菌免疫血清（デンカ生研(株)）を用いて確認した。

なお、菌の熱処理は121℃15分で行い自己凝集した菌株については、新たに100℃60分で処理し

再検査を実施した。

(3) 病原関連遺伝子

鉄捕捉因子遺伝子として*fyuA*、*feoB*、*irp-2*、*ireA*の4種、付着因子遺伝子として*papA*、*papC*、*fimH*の3種、プラスミドコード遺伝子として血清耐性因子遺伝子である*iss*と鉄調整因子遺伝子である*iroN*の2種、プロテアーゼ因子遺伝子として*ompT*の保有状況を確認した。

さらに、平均遺伝子保有数や平均遺伝子保有パターン数を確認し、遺伝子保有パターンについて、シン普森の多様性指数を求めた。

なお、それぞれの遺伝子の増幅はRodriguez-Siek. K.Eらの報告⁽⁹⁾に基づきPrimerを合成し、表1に示したグループの組み合わせによりMultiplex RCR法で確認した。

また、反応酵素は、Multiplex PCR Assay kit ver.2（タカラバイオ（株））を用い、反応液の組成は1チューブにつき2×Multiplex PCR Buffer 25.0μl、最終濃度各0.2μMに調整したPrimer mix 1.0μl、Multiplex PCR Enzyme Mix 0.25μl、Template DNA 1.0μl、滅菌水22.75μl、

表1 Multiplex PCR で使用した病原関連遺伝子のプライマー

グループ	遺伝子名	プライマー塩基配列（5' - 3'）	増幅サイズ(bp)
1	<i>papC</i>	F gtggcagtatgagtaatgaccgtta R atatccttctgcagggatcaata	202
	<i>irp-2</i>	F aaggattcgctgttacggac R tcgtcgggcagcgtttcttct	287
	<i>feoB</i>	F aattggcgtgcatgaagataactg R agctggcgacctgatagaacaatg	470
	<i>ompT</i>	F atctagccgaagaaggaggc R cccgggtcatagtgttcac	559
	<i>papA</i>	F atggcagtggtgttttggtg R cgtcccaccatacgtgctcttc	717
	<i>ireA</i>	F gatgactcagccacgggtaa R ccaggactcacctcacgaat	254
	<i>iss</i>	F cagcaacccgaaccacttgatg R agcattgccagagcggcagaa	323
2	<i>fimH</i>	F tcgagaacggataagccgtgg R gcagtcacctgccctccgta	508
	<i>iroN</i>	F aagtcaaagcaggggtgcccg R gatcgcggacattaagacgcag	667
	<i>fyuA</i>	F tgattaaccccgcgacgggaa R cgcagtaggcacgatgttga	787

を混和したものとした。

PCR反応は、初期熱変性として94℃ 60秒、その後、熱変性94℃ 30秒、アニーリング60℃ 50秒、伸長反応70℃ 50秒とし30サイクル反応させ72℃ 10分間伸長させた。増幅された遺伝子は、1.6%アガロースゲルで泳動し常法により確認した。

(4) 遺伝子型

菌株の遺伝子型は、説明書に従いPOT法によるPOT値で確認した。

なお、反応液の調整は説明書に従ったが、PCR反応は94℃ 15秒、60℃ 180秒を30サイクル繰り返して遺伝子を増幅させた。

成 績

1 溶血性、運動性と糖分解能

溶血性、運動性と糖分解能の成績を表2に示した。全株、非溶血性で、運動性を保持していた。

また、糖分解能では、ラフィノースの分解能が糞便由来株は半分の15株であるのに対し、蜂窩織炎由来株では全株が分解していた。

2 血清型

糞便由来株では、B農場とC農場からO1型がそれぞれ1株と2株確認されたが、残り27株は型別不能であった。

蜂窩織炎由来株では、A農場からO1型が6株、B農場からO8型が1株とO78型が5株、C農場からO78型が7株確認され、残り11株が型別

表2 溶血性、運動性と糖分解能

1 糞便由来株		n = 30		
農場	溶血性	運動性	糖分解能	
			ラフィノース	シュクロース
A	0	10	3	3
B	0	10	5	5
C	0	10	7	5
計	0 (0)*	30 (100)	15 (50)	13 (43.3)

2 蜂窩織炎由来株		n = 30		
農場	溶血性	運動性	糖分解能	
			ラフィノース	シュクロース
A	0	10	10	5
B	0	10	10	8
C	0	10	10	7
計	0 (0)	30 (100)	30 (100)	20 (66.7)

※()内は %

不能であった。

3 病原関連遺伝子

各遺伝子の保有状況を表3に示した。

fyuA 遺伝子を除き、糞便由来株と比べ蜂窩織炎由来株は、各遺伝子を多く保有していた。

蜂窩織炎由来株で80%以上の割合で保有していた遺伝子は、*feoB*、*fimH*、*irp-2*、*iss*、*iroN*及び*ompT*の6種類であった。

なお、*feoB*、*fimH*遺伝子は、糞便由来株でも、それぞれ29株 (96.7%)、28株 (93.3%) と高率に保有していた。

また、糞便由来株は2～7個の遺伝子を保有し、蜂窩織炎由来株は3～10個の遺伝子を保有していた。平均遺伝子保有数は糞便由来株で4.3個、蜂窩織炎由来株7.1個で、遺伝子保有パターンは

表3 病原関連遺伝子の保有状況

1 糞便由来株		n = 30								
農場	<i>fyuA</i>	<i>feoB</i>	<i>irp-2</i>	<i>ireA</i>	<i>papA</i>	<i>papC</i>	<i>fimH</i>	<i>iss</i>	<i>iroN</i>	<i>ompT</i>
A	1	9	2	2	0	0	10	1	1	8
B	4	10	4	0	1	0	10	5	4	5
C	6	10	10	0	0	0	8	3	3	6
計	11 (36.7)*	29 (96.7)	16 (53.4)	2 (6.7)	1 (3.4)	0 (0)	28 (93.3)	9 (30.0)	8 (26.7)	19 (63.3)

2 蜂窩織炎由来株		n = 30								
農場	<i>fyuA</i>	<i>feoB</i>	<i>irp-2</i>	<i>ireA</i>	<i>papA</i>	<i>papC</i>	<i>fimH</i>	<i>iss</i>	<i>iroN</i>	<i>ompT</i>
A	3	10	8	8	1	8	10	9	8	9
B	4	10	7	4	2	4	10	10	10	7
C	4	10	10	6	1	0	10	8	9	10
計	11 (36.7)	30 (100)	25 (83.3)	16 (53.3)	4 (13.3)	12 (40)	30 (100)	27 (90)	27 (90)	26 (85.7)

※()内は %

糞便由来株で17種類、蜂窩織炎由来株で16種類であった。

確認された遺伝子についてシンプソンの多様度指数を求めたところ、それぞれ0.89と0.92であった。

4 遺伝子型

同じ遺伝子型の状況を表4に示した。

遺伝子型は、糞便由来株で24種類、蜂窩織炎由来株で23種類確認されたが、それぞれ同じ遺伝子型はなく、農場間にも同じ遺伝子型はなかった。

一方、各農場内の大腸菌は同じ遺伝子型が確認され、糞便由来株では、A農場で2種6株、BとC農場で2種4株、蜂窩織炎由来株では、A農場で2種7株、B農場で3種7株、C農場で2種7株が同じ菌株であり水平に伝搬していた。

考 察

今回、糞便由来大腸菌と蜂窩織炎由来大腸菌とを比較し、その特徴と遺伝的背景を確認した。

溶血性と運動性を確認した結果、全株が非溶血性で運動性を有していた。また、溶血性については、既報⁽⁹⁾のとおり溶血素が病態に関与していないことを確認した。

今回、これらの性状が全株同じだったことから、症例を積み重ねる必要があるものの、鶏から分離される大腸菌の特徴と考えられる。

糖分解能は、蜂窩織炎由来株の全株がラフィノースを分解し糞便由来株と比べシュクロースの分解能も高いことから菌の生存に有利と考えられた。バー

ジーズ・マニュアル⁽¹⁰⁾では、糖の分解能の違いにより大腸菌を活動型と非活動型に分類している。ラフィノースの分解は活動型であることから病原性との関連性が推測された。

血清型別では、蜂窩織炎由来株は糞便由来株に比べ型別された株が多く、O78が12株確認されるなど既報⁽²⁾⁽⁵⁾⁽⁹⁾と同様であった。

一方、型別不能の多くは、非常に強い自己凝集によるものであり、今後の検査にはPCR法の利用も必要と考えられた。

APECは、付着、鉄の獲得、菌体抵抗性の促進などに係る因子を保有しているとの報告⁽²⁾⁽⁷⁾があることから、今回、それらの遺伝子を中心に保有状況を確認した。

その結果、全ての菌株が2種類以上の遺伝子を保有し、平均遺伝子保有数も糞便由来株と比べ蜂窩織炎由来株が多く保有していた。

個々の遺伝子の保有状況では、*fyuA* 遺伝子を除き、糞便由来株と比べ蜂窩織炎由来株は遺伝子保有数を上回っており、既報⁽²⁾⁽⁶⁾⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾と一致していた。

蜂窩織炎由来株は、第二鉄の取り込みを仲介する遺伝子である*feoB*とタイプI線毛遺伝子である*fimH*を100%保有していた。同様に、糞便由来株でもこれら遺伝子は、それぞれ96.6%と93.3%の高い保有率であった。風間らは、疾病由来及び盲腸由来大腸菌で最も多く保有していた遺伝子は*feoB*と*fimH*と報告⁽⁶⁾し、今回の成績と同様であった。

一方、*feoB*と*fimH*を除き、蜂窩織炎由来株は、

表4 遺伝子型

1 糞便由来株

農場	POT 値						計
	24-0-4	24-0-2	22-0-2	22-32-14	24-80-26	18-0-30	
A	3	3					2種 6株
B			2	2			2種 4株
C					2	2	2種 4株

2 蜂窩織炎由来株

農場	POT 値							計
	24-0-0	24-16-12	0-192-24	4-240-158	24-16-158	4-240-30	0-240-30	
A	5	2						2種 7株
B			3	2	2			3種 7株
C						3	4	2種 7株

irp-2、*iss*、*iroN*及び*ompT*の4遺伝子を80%以上の割合で保有していた。

*irp-2*はトランスフェリン濃度により鉄の取り込みを抑制的に調整する遺伝子である。⁽²⁾

また、プラスミドにコードされている*iss*は補体の膜攻撃複合体の結合を阻害し溶菌作用を抑制させ*iroN*はトランスフェリン受容体の調整に関与している。⁽⁷⁾ *ompT*は膜プロテアーゼの一種で結合組織等の構造を分解し抗菌ペプチドや抗体、補体などから菌体を保護する遺伝子と言われている。^{(2) (6) (7)}

これら遺伝子は、APECの大部分が保有し特に菌の生存に重要な役割をしているとの報告^{(2) (9)}があり、今回の成績は同様の結果となった。

一方、遺伝子保有パターン数では大きな差がなく、シン普森多様度指数も両由来株とも近似値で、既報⁽⁶⁾と同様に多様性が低く、それぞれの遺伝子保有に偏りがなかったことが分かった。

現在、APECは大腸菌症発症鶏の主要臓器や病変部から分離された株を全てAPECと見なしているのが現状であり、70数種類以上の病原関連遺伝子について明確な定義や見解、各遺伝子の関連が示されていない。

また、蜂窩織炎発生の有無や病態には病原因子のみでなく、宿主の免疫や環境、ストレスなどの要因が大きく関わっているものと推察される。

そのため、今回の野外発症例における分離株の病原性遺伝子の保有数や保有パターンの違いから、病原性を評価することは困難であり、今後も成績を積み重ね解析する必要がある。

遺伝子型では、糞便由来株と蜂窩織炎由来株は異なっていた。環境由来株の調査は行っていないが、これまでの試験結果を踏まえ、蜂窩織炎の原因菌は糞便からではなく環境に由来しているものと考えられた。

また、空舎期間を長くすると大腸菌症の発生率が低下するとの報告^{(11) (12)}があることから、糞便由来株が直接的に病気の発生に関与していないものと推測された。

そのため、環境の大腸菌コントロールが蜂窩織炎

の低減に重要であると考えられた。

また、今回、糞便及び蜂窩織炎由来株の一部は農場内で水平に伝搬していた。これは、それぞれ異なる感染源があることを示唆しており、農場内の詳しい調査が必要と考えられた。

今後は、皮膚の常在菌が関係しているとの報告⁽²⁾もあることから、皮膚由来菌との関係や他の病原関連遺伝子の状況を確認し、大腸菌性蜂窩織炎の低減のため、さらなる症例データの蓄積が重要と考えられた。

引用文献

- (1) 鶏病研究会専門委員会：ブロイラーの蜂窩織炎 鶏病研究会報 42巻1号 15-24 (2006)
- (2) 中村菊保：鶏の大腸菌症の病理と病理発生 鶏病研究会報 52巻1号 24-34 (2016)
- (3) 鶏病研究会編：鳥の病気 第6版 138-141 (2014)
- (4) 板倉智敏：肉用鶏の滲出深層性皮膚炎 鶏病研究会報 30巻2号 114-115 (1994)
- (5) 渡邊 理ら：ブロイラーにおける蜂窩織炎の発生とその要因 日獣会誌 62 121-125 (2009)
- (6) 風間知里ら：鶏病原性大腸菌の病原性関連遺伝子と病原性との関連性 鶏病研究会報 52巻3号 191-196 (2016)
- (7) 村瀬敏之：採卵用成鶏における大腸菌症鶏 鶏病研究会報 45巻3号 147-155 (2016)
- (8) 加藤麻美ら：大腸菌症非発症鶏の盲腸から分離された常在大腸菌の初生雛に対する病原性 日獣会誌 68 693-698 (2015)
- (9) Rodriguez-Siek. K.E. et al. : Characterizing the APEC pathotype. Vet. Res. 36. 241-256 (2005)
- (10) Bergey's manual of determinative Bacteriology ninth Edition 209-210 (1993)
- (11) 平成23肉用鶏大腸菌対策マニュアル 社団法人日本養鶏協会 6-12
- (12) Stephenns S Cellulitis : predisposing production f3 actors, 22st Annual Poultry Industry Workshop 1996

企画展「アクア学びうむ～豊かな地球を未来に～」

青森県営浅虫水族館 久保真司

近年、SDGsというワードをよく見かけたり、当館へ来館される学校団体から海洋プラスチック問題やSDGsについての講話を依頼されることが増えたりと、環境教育に対するニーズが高まっています。そこで教育施設としての役割を有する水族館の使命を果たし、持続可能な社会の実現に貢献していった

め、2階展示ホール（縦6m、横16m）において企画展「アクア学びうむ～豊かな地球を未来へ～」を2022年4月より開催しています（図1）。（なお、本企画展は、船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の支援を受けて実施しています。）



図1 企画展全景

本企画展は、海や川、湖など水辺の環境問題について学ぶことを皮切りに、生物多様性の保全そしてSDGs達成の大切さを知り、豊かな地球を未来の世代に引き継いでいくために、今、私たち一人一人に何ができるのかを考えていただける内容になっています。水辺の環境問題として、同年4月～7月までは「水産資源の管理」、8月～11月までは「海洋プラスチック問題」、12月～翌年3月までは「外来種問題」について展示し、「生物多様性」と「SDGs」については通年展示しています。

今回は紙面の関係で海洋プラスチック問題と外来種問題を省略した概要を紹介したいと思います。まずは入口に企画展のタイトル及び趣旨を掲示し、お客様に本企画展の大枠が伝わるようにしました（図2）。



図2 企画展入口

そして水産資源の管理では、まずは水産資源の定義を伝え、青森県だけでみても、私たち人間は多くの魚種を様々な漁法で漁獲し（図3）、色々な料理法でいただいていることを生体及び食品サンプルを用いてわかりやすく紹介し、再認識できるようにしました（図4）。その上で、世界や日本、そして青



図3 水産資源の定義、漁法



図6 3例の水産資源の状況



図4 水産資源の生体及び食品サンプル



図7 みんながやっている取り組み



図5 世界も日本も水産資源がピンチ

森県も水産資源がピンチな状態であることを資源量や漁獲量などの経年データを用いて紹介し（図5）、さらにクロマグロ、ニホンウナギ、ホタテガイ3例の水産資源が獲りすぎや地球温暖化などの要因により危機的な状況であることを紹介（図6）することで、危機感を感じてもらえるようにしました。そして、水産資源のめぐみを受け続けていくためには、水産資源の管理が大切で、国や漁業者、販売者などの取り組みを知るとともに、私たち消費者も1種類の魚ばかりを集中的に食べないようにしたり水産エ



図8 生物多様性の定義、めぐみ

コラベルのついた商品を購入したりするなど、今すぐできることがあることを紹介しました（図7）。ここからは地球全体に目を向けていただくため、生物多様性の定義、めぐみ、そして危機について紹介し、1種類の生物の絶滅が引き金となり、ドミノ倒しのように複数の種が絶滅し、最終的には人間を含めた生物の全滅につながる可能性があることを解説し、より自分事としてこの問題に興味や関心を持ってもらえるようにしました（図8、9）。



図9 生物多様性の危機



図11 浅虫水族館のSDGs達成への取組み



図10 世界を変える17の目標「SDGs」

最後に、生物多様性の保全を含め貧困や差別など世界は様々な問題を抱えており、それらを2030年までに解決するために一人一人が取り組んでいく目標であるSDGsについて紹介し（図10）、浅虫水族館のSDGs達成に向けた取り組みとして、SDGsの最前線つまり基盤として大切なのは、豊かな生物多様性を維持していることであるとの考えを伝え、単なるレジャー施設ではなく、その保全に向けた行動ができ

るような人を育てることができる場を目指していることを宣言しました（図11）。

また、水族館スタッフが「やってみたSDGs」な行動を紹介するとともに、みんなが「やってみたSDGs」な行動をTwitterでツイートしてシェアしようと呼びかけ、その投稿をプロジェクターで投影し、来館者に共有することによって、SDGsを達成するための行動は小さなステップからで良いのだと感じてもらい、豊かな地球を未来へ引き継いでいくために大切な行動について考える場を提供して本企画展のまとめとしました（図12）。

来館者からは「様々な環境問題があることを改めて知りました」、「できることからやっていきたい」など多くのご意見をいただきました。当館ではこれからも水生生物の魅力をお伝えしていくことをはじめ、持続可能な社会の実現に貢献していくため、環境教育にも力を入れてまいります。

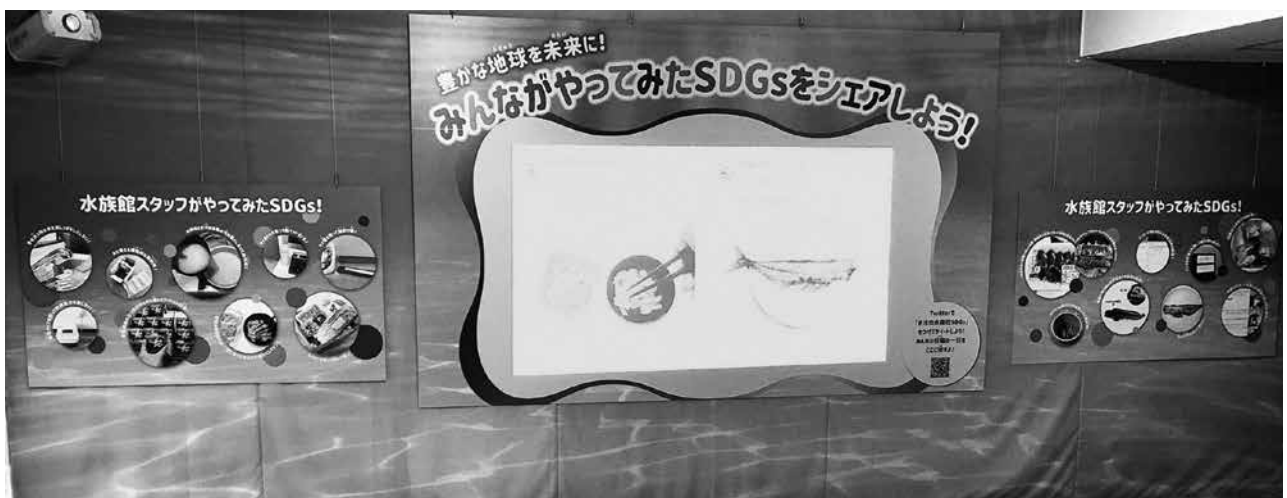


図12 水族館スタッフがやってみたSDGs、みんながやってみたSDGs

青森県営浅虫水族館からのお知らせ

青森県営浅虫水族館では、これまで、青森県獣医師会報に、飼育に関する様々なエピソード、海獣類の飼育・検査のための訓練や企画展の概要など、様々な話題を提供して参りました。皆さん、楽しく興味をもって読んで頂けましたでしょうか。

また、浅虫水族館では、「マリンスノー」という機関誌を発行しています。試験や研究、様々な情報を公開していますので、是非、こちらをご覧ください。浅虫水族館のホームページから簡単に閲覧できます。



<https://asamushi-aqua.com/special-contents/bulletin>

今後とも、浅虫水族館では太平洋と日本海、陸奥湾と津軽海峡など青森県の海の魅力を伝えて参りますので、皆様の御来館をお待ちしております。

なお、これまで会報に掲載した題名は、次のとおりです。

- ・バンドウイルカの異物誤飲顛末記
- ・キタオットセイってどんな動物
～ 浅虫水族館の保護事例 ～
- ・青森県で見られるクラゲと教育普及活動
- ・日本鯨類協議会平成30年度海外施設研修
- ・浅虫水族館での飼育・繁殖事例の紹介
～ オオカミウオ ～
- ・浅虫水族館ペンギン相関図
- ・イルカの胃液採取トレーニングについて
- ・ゴマフアザラシの赤ちゃん誕生
- ・イルカのハズバンダリートレーニングにおける体重測定について
- ・イルカがエコー検査をできるようになるまで
- ・食育・これが本当の「いただきます」
～ マダラ編を開催しました ～
- ・イルカの呼気採取について
- ・ペンギンの雛の誕生と成長について
- ・環境エンリッチメントの取り組み
(イルカのおもちゃ)
- ・マコンプの常設展示に向けた取り組み



好酸球性角膜炎の猫の1例

北里大学附属動物病院

動物種：ネコ 系統：Mix 性別：メス 年齢：4歳 体重：3.2kg

稟告：2021年春から左眼が、同年秋から右眼が白濁した。2022年1月から近隣病院にて角膜傷害治療薬による角膜潰瘍の治療を受けていたが、症状が改善されず2022年2月に本大学附属動物病院に来院した。

初診時検査所見：

○一般血液検査：異常なし。

○ウイルス学的検査：血清中の猫ヘルペスウイルス（FHV）-1抗体価はIgMが40倍未満、IgGが640倍以上であった。角膜病変部のFHVに対するPCR検査結果は陰性であった。

○一般眼科検査：両眼の角結膜には、結膜浮腫、表在性および深在性角膜血管新生とその血管新生に沿った白黄色、カッターシ・チーズ様の隆起病変が認められた（図1）。簡易神経学的検査は両眼で正常であった。角膜フルオレセイン染色試験は、左眼のみに陽性所見が認められた（図2）。病変部のブラッシュサイトロジーでは、角膜上皮細胞、好酸球、肥満細胞および好中球が確認された。



図1. 初診時の右眼および左眼



図2. 初診時のフルオレセイン染色（左眼）

診断：好酸球性角膜炎（EK）

治療と経過

初診時（第1病日）、左眼に角膜潰瘍が存在するため。また飼い主が分かり易い処方とするため、右目のステロイド点眼薬の初期利用を断念し、両眼に1日3回、免疫抑制剤である2%シクロスポリン製剤と角膜上皮障害治療薬である0.3%ヒアルロン酸ナトリウム点眼薬をそれぞれ処方した。同時に、エリザベスカラーの装着を指示した。

第7病日、両眼の白黄色隆起病変の減少および左眼の角膜フルオレセイン染色陽性領域の減少がみられた（図3、4）。初診時の処方継続を指示した。

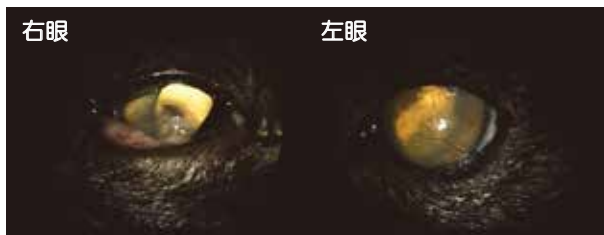


図3. 第7病日の右眼および左眼



図4. 第7病日のフルオレセイン染色（左眼）

治療と経過

第55病日、両眼にわずかな表在性角膜血管新生の残存が認められた（図5）。また、左眼のフルオレセイン染色試験は陰性であった（図6）。両眼に処方していたシクロスポリン製剤およびヒアルロン酸ナトリウム点眼薬、1日3回を休薬とし、新たに0.1%フルオロメトロン点眼薬、1日2回を処方した。

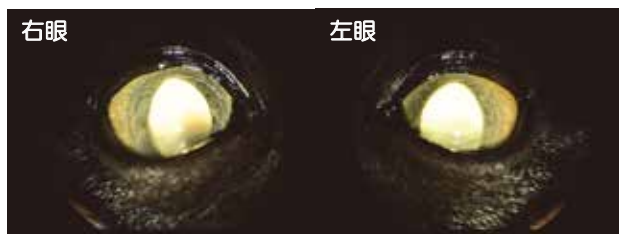


図5. 第55病日の右眼および左眼

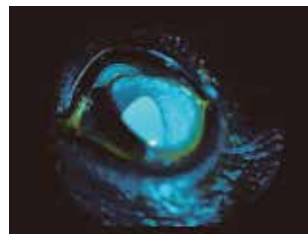


図6. 第55病日のフルオレセイン染色（左眼）

第230病日、細隙灯検査を実施したところ、角膜の表在性血管新生は消退し、角膜混濁も改善していた（図7）。フルオロメトロン点眼薬の継続、1日1～2回を指示し、本大学附属動物病院における治療は終了とした。

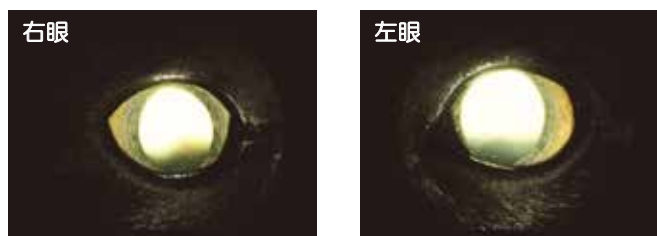


図7. 第230病日の右眼および左眼

ノート

好酸球性角膜炎（EK）はネコやウマに発生する慢性進行性の角膜疾患である。EKは、一般には背側耳側から発生する表在性角膜血管新生から始まる。症状が進行していくと、血管が中央へと浸潤していき、EKの最も顕著な特徴である、壊死した無細胞性物質と好酸球を含む白黄色カッテージ・チーズ様の隆起物が角膜病変および隣接する結膜上に現れる。病変部のブラッシュサイトロジー法による検査では、角膜上皮細胞、好酸球、肥満細胞、好中球、リンパ球が認められる。好酸球が優勢でないタイプも存在するが、多数の好酸球が認められた場合は診断的である。EKの発生は4～6歳の成猫に発症し、そして片側性であることが多い。また、FHV-1との関連が示唆されている。その治療は、酢酸メゲストロールの経口投与や、コルチコステロイドやシクロスポリンなどの免疫抑制剤の点眼が用いられ、多くの場合、平均6週間以内に症状が寛解する。しかし、寛解による投薬中止は再発も多いことから、最低用量での維持療法が必要な場合がある。また、FHV-1の関与が予想される角膜潰瘍や、FHV-1の感染が証明されている症例の治療に抗ヘルペスウイルス治療薬の追加利用を考慮する。

本症例は、初診時の特徴的な白黄色、カッテージ・チーズ様隆起病変ならびにブラッシュサイトロジー法により好酸球および肥満細胞を認めたことからEKと確定診断した。また、左眼には角膜潰瘍が存在したため、FHV-1のPCRと血清抗体価検査をオーダーし、抗ヘルペスウイルス薬利用の有無を検討予定であった。その結果、FHV-1に対するIgG抗体価の上昇は確認されたが、IgM抗体価の上昇は認められなかった。また角膜病変部のFHV-1のPCR検査結果は陰性であった。ただし、第7病日には症状の改善が認められたため、その利用はしなかった。また、角膜潰瘍へのコルチコステロイド点眼薬の使用は禁忌であるため、初診時の処方シクロスポリン製剤の点眼とヒアルロン酸ナトリウムの点眼とし、寛解を得られた症例であった。

担当医：小動物第2内科学研究室 岡田 大輝 金井 一享

黒毛和種の唇顎裂の一症例

北里大学附属動物病院・大動物診療センター

【はじめに】

こんにちは。北里大学附属動物病院・大動物診療センターの日下です。
今回の臨床ノートでは、唇顎口蓋裂の疑いで大動物診療センターに来院した症例を取り上げ、学内で実施した各種検査結果と本症例を通じて再度確認しておきたい、顔面裂診断の注意点をまとめました。

【症例の情報】

動物種：牛
品種：黒毛和種
性別：雄
年齢：2か月齢
体重：50.5kg



図1. 顔面正面からの外貌(A)および哺乳時の唇裂部の様子(B)

【身体検査】

来院時、体温39.2°C、心拍数96回/min、呼吸数42回/min。右側方の唇裂を認め（図1A）、触診により外鼻孔と口腔が連通していましたが、口蓋に大きな欠損は確認されませんでした。頭部以外の部位について、身体検査で確認できるその他の奇形はなく、自力起立可能で哺乳欲があり少量の乳を摂取可能でしたが、時折、吸乳中に咳き込む場面がありました（図1B）。そのため体重が月齢の平均以下であり発育不良気味でした。

【レントゲン検査】

頭部RL像および頭部VD像において、上顎骨は確認できましたが、それに続く切歯骨は前縁部が不明瞭でした（図2AおよびB）。

また頭部VD像において、上顎と下顎を正中で合わせ撮影したにも関わらず、上顎骨と下顎骨のローテーションしていました（図2B）。



図2. レントゲン検査結果：頭部RL像(A)および頭部VD像(B)

【内視鏡検査】

左側外鼻孔から観察を行ったところ、鼻中隔の欠損や右側鼻腔との連絡孔はありませんでした。また気管内部は正常であり食渣なども観察されませんでした。

【CT検査】

顔を鼻端側より描写した像で、上顎の部分的な右側切歯骨の欠損と下顎の左右非対称性が確認されました(図3A)。

また頭部横断像において、鼻腔内部と両側鼓室胞内部に液体貯留あるいは炎症が疑われました(図3B)。

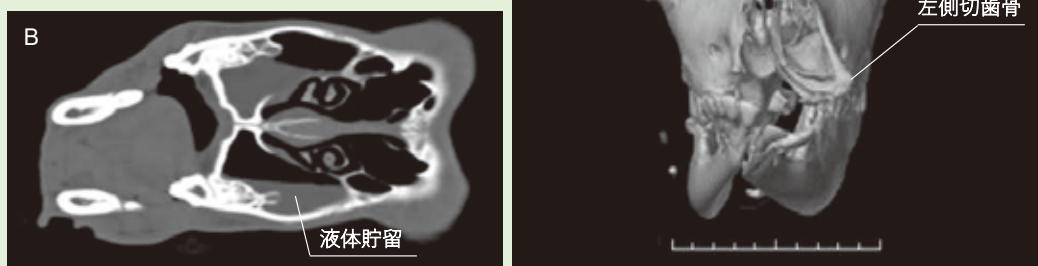


図3. CT検査結果：顔面鼻端側像(A)および頭部横断像(B)

【病理解剖検査】

成牛に発育する見込みがないと判断し、安楽殺ののち病理解剖を実施しました(表1)。

鼻中隔下端の部分欠損は確認されましたが、口蓋裂の肉眼的病理所見としてみられる、口腔口蓋面での硬口蓋から軟口蓋までの大きな開裂と外頭蓋底面から鼻腔や鼻中隔の露出はありませんでした。

その一方、右側方の唇裂を認め外鼻孔と口腔が連通しており上顎切歯骨の欠損がみられたことから、右側唇顎裂と診断されました。さらに、誤嚥によると示唆される肺病変が確認されました。

【まとめ】

顔面裂は、前頭葉・上顎・下顎などの顔面突起の閉鎖不全による障害であり、口唇裂や口蓋裂として吻側顔面の外側または中央部に現れます。これらの奇形は単独で生じる場合もありますが、合併して発症することがあります。

本症例のように、外貌から明らかな唇裂が確認できる個体においては、**口蓋裂の有無もまた確認することが重要です。**早期予後判定のためにも必ず口蓋裂の有無を確認する必要があります。誤嚥を伴わないような軽度な唇裂のみの発症であれば継続飼養が可能であったかもしれません。

また、過去に**口蓋裂に気づかないまま子牛の誤嚥性肺炎の治療**を行っていた事例に関する報告があります。肺炎症状に気を取られ、気づくべき原因に気づかないまま無駄な治療を続けてしまい予後判定が遅れるというケースをなくすためにも、臨床現場での触診や視診による基本的な口腔内の検査は大切です。

表1.病理解剖の結果

奇形（形成不全）
右側上唇および上顎切歯骨の欠損
下顎切歯骨左右非対称性
眼窩前縁より吻側 2.5 cm の位置から鼻中隔の下側欠損
上顎洞に白色粘稠物の貯留
限局性の化膿性気管支肺炎（無気肺、うっ血性肺水腫を併発）
左右前葉～中葉にかけての地図状、硬結暗赤色病変

お山歩日記（第10回）

西北支部 角田裕美

今回のテーマは山の秘湯です。温泉に入るためにわざわざ登山をする秘湯マニアもいるそうで、歩かないと辿り着けないところに他の温泉では味わえない充足感があるようです。

今回は、歩いてしか行けない山の秘湯をご紹介します。

なお、いずれも新型コロナウイルス感染症まん延以前の記録です。

1 秋田焼山の野湯

【秘湯度★★★ 行きやすさ★】

秋田焼山の登山口は後生掛温泉又は玉川温泉で、どちらに下山しても温泉があるという、温泉好きにはたまらない登山コースです。どちらの温泉も全国区の知名度を誇る良い温泉ですが、ご紹介するのは観光客が絶対行かない、山中にある野湯です。

最近、エクストリーム温泉というのが流行っているようで、登山しないとたどり着けないだけでなく、自分で野湯を探し、浸かるためにスコップで掘るという、手間のかかる温泉ですが、その工程が冒険チックでたまらないそうです。

この秋田焼山の野湯は、まさにエクストリーム温泉！川底から温泉が湧いており、川の水で温度調節をするようです。私は足湯だけ楽しんで帰りました



熊が出そうで怖い登山道



鬼ヶ城



後生掛温泉の登山口にある看板



白濁した温泉川

が、全身浸かって帰る人もいます。

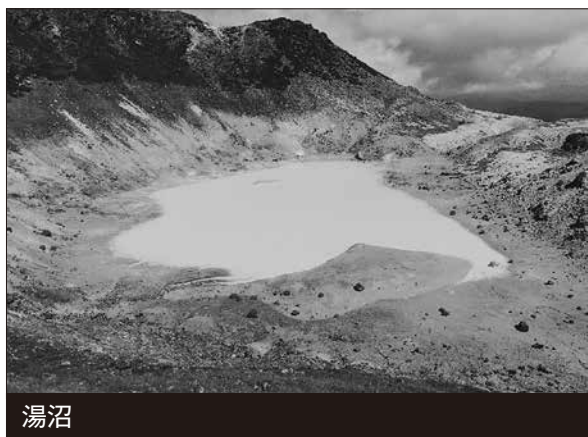
さて、秋田焼山の野湯を目指し4時間半の登山スタートです。まず、登山口の後生掛温泉からですが、熊出没の看板があり、ビビりながら歩き始めます。最初は樹林帯の暗い道だったので、熊鈴を手で振って常時鳴らしながら歩きます。

毛せん峠に出ると視界が開け、気持ちの良い稜線歩きになりテンションアップ。避難小屋の前を通り過ぎると、鬼ヶ城という溶岩が固まった岩だらけの場所に着きます。さらに歩くと名残峠に出て、湯沼という硫黄成分で真っ白な火口に着きます。以前、硫黄の採取が行われていたようで、ガスの噴出口が黄色くなっています。

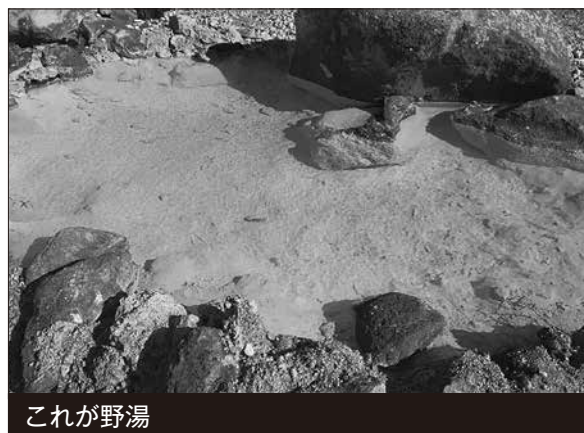
焼山の山頂はすぐそばにありましたが、全く展望のない三角点だけがあるガッカリな山頂です。

山頂からベコ谷地方面に下っていくと、白濁した温泉川があります。温泉川のいたるところに岩風呂っぽい窪地があり、ここが目的の野湯です。川の水を触ってみると、いい湯加減でした。少し下流に行くと、全身浸かれそうな場所もありましたが、脱衣所があるわけもなく、登山道のそばなので着替えにはスピードが要求されそうです。

足湯だけ堪能し、さらに1時間くらい歩いて後生掛温泉に下山しました。下山してから温泉にゆっくり浸かって帰りました。



湯沼



これが野湯

2 くろがね小屋（安達太良山）

【秘湯度★ 行きやすさ★】

福島県の安達太良連峰鉄山の下にある山小屋で、年中無休で営業しています。岳温泉の源泉に近いところにあるので、泉質は文句なしです。日帰り入浴は10時～13時までと短いので注意してください。宿泊すれば源泉かけ流しの白濁した硫黄泉にゆっくり浸かれます。



安達太良山山頂



火星みたいな沼の平

くろがね小屋に行くだけなら、安達太良山奥岳登山口から歩いて2時間で着きますが、せっかくなので山頂を周回する4時間コースでくろがね小屋を目指します。

あだたら高原スキー場沿いの登山道を登っていくと、智恵子抄に出てくる「ほんとの空」の碑があります。ここからは岩の多い本格的な登山道になり、最後に急こう配を登れば山頂に着きます。山頂から稜線を北に進むと、沼の平という巨大なクレーターのような火口があり、火星をイメージさせる荒涼とした景色が広がっています。

ここから30分くらい進むとくろがね小屋です。チェックインを済ませたら、さっそく温泉。4人くらいしか入れない浴槽ですが、ほぼ貸し切りで堪能しました。この小屋の名物はカレーライスで、おかわり自由です。シンプルなカレーですが、やたらおいしかったです。頑張って歩いた甲斐がありました。



3 三斗小屋温泉 (那須岳)

【秘湯度★★ 行きやすさ★★】

栃木県的那須岳の北麓にある温泉で、登山口から1時間半くらい歩くと宿が2軒(煙草屋旅館、大黒屋旅館)あります。残念ながら日帰り入浴はできません。私は絶景露天風呂がある煙草屋旅館に泊まりました。露天風呂は源泉がドバドバかけ流されており、山並みを見ながら至福のひと時を味わえます。

風呂からあがったら晩御飯!17時頃、太鼓の音が鳴ったら大広間へ。お膳で豚肉の生姜焼き、焼魚、煮物、みそ汁が出てきました。歩荷で荷揚げした食材を、ありがたくいただきました。

登山の方はというと、那須岳のロープウェイで標高1,684mの山頂駅へ行き、40分歩いて那須岳(茶臼岳)の山頂に到着、鎖場を渡って朝日岳に登り、熊見曾根経由で三斗小屋温泉に到着します。





宿の晩御飯



地獄谷



北温泉の温泉プール



雷鳥荘

帰りは姥ヶ平、牛首経由で2時間で下山。下山後は映画テルマエ・ロマエのロケ地で有名な北温泉へ。屋外の温泉プールが有名ですが、館内には男女それぞれ4種類の内湯があります。160年の歴史を感じる建物や内装も見どころです。

4 らいちょう温泉 雷鳥荘 (立山)

【秘湯度★ 行きやすさ★★★★】

立山アルペンルートの最高地点、室堂から徒歩30分ほどで着くので、行きやすい温泉です。宿が建っているのは標高2,400m、窓からは3,000m級の山々を望むことができます。展望浴場があり、白濁した硫黄泉が贅沢に注れ、窓からは奥大日岳が見えて最高でした。

この宿は地獄谷の煙がもうもうと流れてくる場所に建っており、この地獄谷の地熱を使って宿を暖めているそうです。

剣岳や立山登山の拠点になっており、女風呂では腿とふくらはぎの筋肉が只者ではないガチの登山女

性をたくさん見ました。私も剣岳に登れるだけの筋力をつけて再訪したいと思っています。

5 終わりに

普通に登山を楽しむのもいいけれど、山に登った後の温泉の心地よさは格別です。それが登山しないとたどり着けない温泉であれば、登山のモチベーションも上がるはず。

これから行ってみたい山の秘湯は、長野県の本沢温泉です。標高2,150mの日本最高所にある温泉で、「雲上の湯」という野天風呂があります。次に行ってみたいのは、長野県にある白馬鍾温泉で、こちらは2,100mと標高第2位の野天風呂があります。コロナが終息して早く温泉登山ができる時が来てほしいものです。

〔事務局だより〕

◎会員の動向

(1) 会員数（正会員） (人)

令和3 年度末	令和4年度		令和4年 12月15日 現在
	入会	退会	
413	5	17	401

(2) 支部別正会員 (人)

青森	弘前	三八	西北	上十三	下北	計
59	30	115	26	149	22	401
6	1	2	1	8	3	21

(下段は名誉会員数で内数)

(3) 賛助会員

会員数	1
名称	株式会社クレディセゾン

(4) 退会会員

氏名	支部	退会年月日
佐藤 香	西北	令和4年8月30日

◎事務日誌

1 事務関係

(1) 令和4年度中間監査

期日：令和4年11月18日（金）

場所：十和田市 食鳥検査センター

内容：令和4年度事業進捗状況及び会員状況・
貸借対照、正味財産増減計算書等確認

参集：監事、事務局長、事務局

センター所長・次長・室長

辻・本郷税理士法人青森事務所長

(1) 第5回理事会

期日：令和4年12月9日（金）

場所：青森市 青森県獣医師会館

内容：令和4年度中間監査、令和4年度事業進

捗状況及び会員状況・その他報告事項

参集：会長ほか役員、事務局長、事務局

2 食鳥検査事業関係

(1) 食鳥検査センター創立20周年記念式典

期日：令和4年10月9日（日）

場所：青森市 アップルパレス青森

内容：20年の歩み、功労者表彰、記念講演

参集：岩手県・宮城県獣医師会会長、常務理事、
会長ほか役員、受賞者、検査員、会報部
会員、センター所長ほか、事務局

(2) 令和4年度食鳥指定検査機関情報連絡会議

期日：令和4年10月25日（火）

場所：長崎県長崎市 平安閣サンプリエール

内容：勤続功労者表彰、研究発表、議題検討等

参集：指定検査機関事務局、会長、次長
室長、発表検査員、事務局長

(3) 令和5年度採用予定検査員面接試験

期日：令和4年11月24日（木）

場所：十和田市 食鳥検査センター

参集：採用応募者、会長、センター所長
次長、事務局長

(4) 第3回特定事業運営委員会

期日：令和4年12月2日（金）

場所：青森市 青森県獣医師会館

内容：令和4年度中間監査結果

令和5年度職員の採用、事業進捗状況

精密検査実施状況等

参集：委員、所長、次長、検査員、事務局ほか

3 狂犬病予防事業関係

(1) 令和4年度

狂犬病予防注射指定獣医師等研修会

期日：令和4年11月25日（金）

場所：盛岡市 アートホテル盛岡

内容：改正動物愛護管理法の完全施行後の対応
状況、マイクロチップ装着・登録義務化
に関連した諸問題

出席：岩手県環境生活部担当者、日本獣医師会
松岡次長、岩手県市町村担当者、岩手県
獣医師会狂犬病予防注射指定獣医師
岩手県獣医師会事務局、事務局長

(2) 令和4年度狂犬病予防注射打合せ会議

期日：令和4年12月8日（木）

場所：つがる市 柏ロマン荘

内容：令和4年度実績及び令和5年度計画等

出席：西北支部長、支部獣医師

西北地区市町村担当者、事務局

4 部会関係

(1) 会報部会

期日：令和4年11月28日（月）、12月12日（月）

場所：青森市 青森県獣医師会館

内容：令和5年1月発行第193号

20周年記念誌編集

出席：会報部会委員、事務局

5 東北地区獣医師会関係

(1) 令和4年度北海道・東北獣医師会事務局会議

期日：令和4年10月20日（木）～21日（金）

場所：青森市 青森県獣医師会館

参集：日獣松岡次長・長野主任、東北各県獣医
師会常務理事・事務員

出席：会長、事務局長、事務局

6 日本獣医師会関係

(1) 動物感謝デー2022 in JAPAN

期日：令和4年10月1日（土）

場所：東京都 上野恩賜公園

参集：日獣会長ほか役員、日獣事務局長
事務局、各県獣医師会長・事務局

出席：会長、事務局長、事務局

(2) アジア獣医師会連合（FAVA）大会

日本獣医師会獣医学術学会年次大会

期日：令和4年11月11日（金）～13日（日）

場所：福岡県福岡市 ヒルトン福岡シーホーク

参集：日獣会長ほか役員、アジア獣医師会役員、
日獣事務局、各県獣医師会長・事務局

出席：会長、事務局長、センター次長ほか

(3) 令和4年度中間監査・第3回理事会

期日：令和4年12月15日（木）

場所：東京都 日本獣医師会館

内容：令和4年度中間監査、その他

参集：日獣会長ほか役員、日獣事務局

出席：会長

7 その他

(1) 一般社団法人畜産協会臨時総会（書面表決）

期日：令和4年10月12日（水）

場所：青森市 畜産協会会議室

(2) 高病原性鳥インフルエンザに係る防疫対策会議

期日：令和4年10月31日（月）

場所：県庁西棟 8階大会議室

参集：県機関、関係市町村、関係団体ほか

出席：事務局長

【支部講習会等開催状況】

(1) 令和4年度畜産講習会

主催：上十三支部獣医師会

期日：令和4年12月6日（火）

場所：十和田市 サン・ロイヤルとわだ

(2) 令和4年度大動物講習会

主催：青森支部獣医師会

期日：令和4年12月12日（月）

場所：青森市 アピオあおもり

(3) 産業動物・飼養衛生管理等同研修会

主催：下北支部獣医師会

期日：令和4年12月13日（火）

場所：むつ市 プラザホテルむつ

〔編集後記〕

令和5年の年が明けました。今年はうさぎ年、「飛躍」や「向上」の年とされていますが、他にも「家内安全」や「福を集める」とか「ツキを呼ぶ」とか言う意味もあるそうで、何となく上向きな印象があります。一方、「ウサギとカメ」の逸話では結果的に地道なカメの方が勝利するレースがテレビや動画で紹介されたりもしています（これもフェイクニュースかもしれませんが・・・）。

さて、日本獣医師会はアジア大会という大きなイベントを終え、新たな「飛躍」の年となりました。

しかしながら、日本獣医師会雑誌を拝読している

と常に新しい課題が出てきて、その解決に向けて知恵を出し合い、協力し合い、苦悩している姿が見受けられ、一朝一夕で「飛躍」に直結するブレークスルーが見つかるような気がしません。地道な積み重ねが必要なのかなと思うと、むしろ「亀年」の方が好ましい気がします。

亀、兎どちらでも結構ですが、会員の皆様におかれましては、良い年を迎え、益々のご健勝とご発展の年となるよう、お祈りいたします。

(A. N)

原稿募集

令和5年4月1日発行予定の会報第194号の原稿を募集いたします。

会員各位の投稿のほか、各支部獣医師会だよりの原稿もお願いいたします。

原稿は、投稿規程を参照して作成し、次の方法で青森県獣医師会にお送りください。

締切り日は2月28日です。期日までをお願いいたします。

〔原稿の提出方法〕

原稿は原則としてMicrosoft Wordで2段組み、23字×37行で作成し、ファイルは電子メールに添付して本会事務局に送信してください。なお、原稿ファイルがWord以外で作成された場合は、使用したソフトをお知らせください。

手書きの原稿や、大容量（20MB以上）の写真を含む原稿ファイルはCD-R等に記録し、本会事務局に郵送してください。

本会事務局住所：〒030-0813 青森市松原二丁目8の2

電子メールアドレス：ao-vet@smile.ocn.ne.jp

動物の健康を通じて、 人々の生活を豊かに。

明治グループに動物用医薬品事業と飼料事業を担う
新たな会社「明治アニマルヘルス」が誕生しました。
私たちは動物や人獣共通の感染症に対して、
予防から治療に至るトータルソリューションを提供します。
この事業活動を通じて、ワンヘルス・アプローチ、
安全・安心な畜水産物の安定供給などの社会課題や
コンパニオンアニマルとの共同生活による
人と動物のQOL向上に取り組みます。



明治アニマルヘルス株式会社
www.vet.meiji.com

公益社団法人日本獣医師会 獣医師福祉共済事業

獣医師の皆さまとご家族に 大きな安心を!!



獣医師の皆さまを取り巻く様々なリスクの備えに

「獣医師会のほけん」

獣医療業務や動物診療施設の事故に対する損害賠償請求に備える

獣医師賠償責任保険 オプション「トリミング・ペットホテル危険担保特約」「個人情報漏えい補償保険」
(クレーム対応サポート補償付) (個人情報取扱事業者賠償責任保険)

団体割引20% 病気やケガに備える

所得補償保険

団体長期障害
所得補償保険

新・団体^{*1}
医療保険

介護保険^{*2}

傷害総合保険

動物病院従業員補償^{*3}
傷害総合保険

*1医療保険基本特約、疾病保険特約、傷害保険特約、がん保険特約セット団体総合保険 *2介護一時金支払特約セット団体総合保険 *3就業中のみ危険補償特約セット傷害総合保険

動物病院の「什器・備品・医療機器」の損害に備える

動物病院「什器・備品・医療機器」総合補償
(テナント総合保険)

保険契約者 **公益社団法人 日本獣医師会**

このご案内は概要です。詳しい内容につきましてはパンフレットをご請求いただき、取扱代理店または損保ジャパン営業店までお問い合わせください。

問い合わせ先

幹事代理店 **株式会社安田システムサービス**
〒163-1529 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー29F
TEL:03(3340)6497 FAX:03(3340)5700
受付時間 9:00~17:30(土・日・祝休)

引受保険会社 **損害保険ジャパン株式会社**
団体・公務開発部第二課
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL:03-3349-5402 FAX:03-6388-0161
受付時間 9:00~17:00(土・日・祝休)

日本獣医師会福祉共済事業各保険の資料は下記幹事代理店までご請求ください。
なお、携帯電話からもご請求いただけます。下のQRコードからアクセスしてください。



SJNK19-10350(2019.12.3)



損保ジャパン

SOMPO Innovation for Wellbeing

安心の
THE
ラインアップ



THE  **クルマの
保険**



THE  **カラダの
保険**



THE  **すまいの
保険**



あなたの暮らしを まるごと守る



© JAPAN-DA

あなたの生活に寄り添う
損保ジャパンの「THE(ザ)」シリーズ
充実の補償内容、万全の事故対応、安心のサービスで
あなたの暮らしをまるごと守ります。

損害保険ジャパン株式会社

青森支店 青森支社
〒030-0801 青森県青森市新町 1-1-14
<https://www.sompo-japan.co.jp/>

株式会社青い森保険企画

〒030-0843 青森県青森市浜田 2-6-15
Tel:017-739-6583
<https://aoimorihokenkikaku.com>

YES! we do 

動物のこと考えてます。



私達は動物用医薬品の供給により

動物・ペットの様々な病気を癒すサポートをし、

さらにそれが人々の心の癒しとなることを願います!

株式会社 アグロジャパン

本社・〒950-0134 新潟県新潟市江南区曙町5丁目1番3号

北東北営業部 青森チーム TEL・0176-23-7231 FAX・0176-24-0290

— 今までもこれからも「生命の未来」のために尽くしたい —

獣医師・畜産用医薬品, ワクチン類, 器具機材, プレミックス製造販売総合商社

小田島商事株式会社

本社 岩手県花巻市卸町66番地 0198 (26) 4151

◆ 営業所一覧 ◆

花巻営業所	0198 (26) 4700	山形営業所	023 (633) 5333
大船渡営業所	0192 (26) 4740	酒田出張所	0234 (26) 4666
大館営業所	0186 (43) 1609	福島営業所	024 (553) 6678
横手営業所	0182 (33) 5404	新潟駐在所	0254 (23) 7567
青森営業所	017 (738) 1224	旭川営業所	0166 (46) 0270
八戸営業所	0178 (34) 2284	札幌営業所	011 (813) 1300
古川営業所	0229 (26) 4567	帯広営業所	0155 (25) 8661
		釧路出張所	0154 (31) 5575
プレミックス工場	0198 (26) 4726	家畜衛生食品検査センター	0198 (26) 5375



メディアパルグループ



動物の健康はヒトの健康につながる

- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康を守ります。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、食の安全・安心と自給率の向上に貢献できる会社を目指します。

MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
 TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600
<http://www.mpagro.co.jp/>

東北営業部 青森支店 TEL 0178-20-2011 FAX 0120-446902

事業所一覧

東京本部・岡山オフィス・福岡オフィス
 札幌・旭川・北見・帯広・釧路・函館・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
 大阪第一・大阪第二・兵庫・岡山・広島・山口・鳥取・島根
 高松・徳島・松山・宇和島
 福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
 AHSC(アニマルヘルスサポートセンター)
 MPアグロ
 札幌・帯広・盛岡・関東・御津・各物流センター



動物の価値を高めること。総合動物薬企業「ゼノアック」の永遠のテーマです。



Bovine

乳牛・肉牛用製品

動物用医薬品 セレン配合総合ミネラル固形塩
銻塩セレニクス®60TZ
 動物用医薬品 糖精剤及び血液代用剤
酢酸リンゲル-V注射液
 動物用医薬品 内外寄生虫駆除剤
アイボメック®トピカル
 動物用医薬品 エブリノメクチン製剤
エブリネックス®トピカル
 動物用医薬品 [要指示] [指定] 泌乳期用乳房注入剤
セファメジン-Z
 動物用医薬品 [要指示] [指定] ジクラズリル製剤
ベコクサン® NEW
 動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] 牛用非ステロイド系消炎薬製剤
メタカム®2%注射液 NEW
 動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] 塩酸クレソチロール製剤
ブランパート® NEW
 動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] プロテゾラム製剤
メデランチル® NEW
 動物用医薬品 メンプトン製剤
動物用エンドコール®注 NEW



Dog & Cat

小動物用製品

動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] ホアビー®性皮膚病減痛作療法薬
アレルミューン®HDM
 動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] 犬猫及急性期用抗炎症剤
ブレンダ-Z
 動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] 犬用ノミ・マダニ駆除剤
ネクスガードスペクトラ®
 動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] 猫用ノミ駆除・殺生予防/マダニ駆除剤
ブロードライン®
 動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] 動物ワクチングループ
ピュアボックス®RCP
ピュアボックス®RCP-FeLV
ピュアボックス®RCPCh-FeLV
 動物用医薬品 動物用院内検査キット
SNAP®シリーズ
 ハートワームRT-FeLV/FIVコンボ
 ジアルシア®バルボ-cPL-proBNP
 動物用医薬品 犬用検査薬用
メディターム
オーツグループ
 オーツシャンパー・エクストラ (動物用シャンプー)
 オーツイヤークリナー® (動物用イヤークリナー)
 オーツダーマルカム®/スポットフォーム® (動物用ディリッカー)
 犬用アロマケア
オーラベット
 犬用食物アレルギー療法食
ピュアプロテイン®



Swine

養豚用製品

動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] 豚サコウイルス (S型) 感染症不活化ワクチン (油性アジュバント加懸濁液)
サーコバック®
 動物用医薬品 [創] [指定] 解熱鎮痛消炎剤
ピレキシシン®10%
 動物用医薬品 [創] [指定] グルタラール消毒剤
グルタプラス®
 [A飼料] 豚用生菌混合飼料
インテクトY®
 [A飼料] アルミノ珪酸ナトリウム・カルシウム
マイコ-AD A-Z
 [A飼料] 豚用混合飼料
モイストケア
 [A飼料] 有機ミネラル飼料添加物
アペイラSOW®
 豚精液希釈保存液用粉末
ゼノロング®R
 豚精液希釈保存材
MT スパーダP



Avian

養鶏用製品

動物用医薬品 [要指示] [創] [生物] [指定] 菌伝染性気管支炎生ワクチン
IB生ワクチン
「BI」H120ネオ NEW
 動物用医薬品 [要指示] [創] [生物] [指定] ワクチングループ
アビVG/GAネオ NEW
 動物用医薬品 [要指示] [創] [指定] ワクチングループ
ネモバック®
ピニューボックス®SE
Mg生ワクチン (NBI)
MS生ワクチン (NBI)
 動物用医薬品 ワクモ専用殺虫剤
ゴッシュ®
 [A飼料] 鶏用混合飼料
アビヘルスRU
 [A飼料] 天然枯草菌混合飼料
クロスタットグループ
 水質改善発泡タレット
ネオスタブ®
 強力洗浄剤
シフト™

©登録商標

ZENOAG 日本全業工業株式会社
 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

ZENOAG 日本全業工業株式会社
 青森県十和田市東4番町3-25

青森コミュニケーションオフィス
 TEL.0176(21)5170

Technol

テレワーク スタートパック



自宅と
会社間で安心して
データ共有したい
データ共有 ※データセンター

会社

自宅



会社とのデータ共有
インターネットセキュリティ対策

費用合計
2,500円/月～

※設定費用等は別途必要になります。

パソコンと
インターネット回線は
別途必要です！

テレワークはテクノルへご相談ください。



株式会社 テクノル

青森県八戸市廿三日町2 YSビル3F

資料請求・お問い合わせはこちら

TEL 0178-47-8311 <https://www.technol.co.jp>





日本獣医師会・獣医師会活動指針

—動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。—

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方 (One World-One Health) が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興、再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領 獣医師の誓い — 95年宣言」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WCS）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。

令和5年1月1日

発行所 青森市松原二丁目8の2

公益社団法人 青森県獣医師会

T E L 017(722)5989

F A X 017(722)6010

Email ao-vet@smile.ocn.ne.jp

印刷所 青森市幸畑松元62-3

青森コロニー印刷

T E L 017(738)2021

F A X 017(738)6753